

18
604

(M)

海獸獵業法策

037424-000-0

18-604

海獸獵業法策

高瀬 寅昌 / 著

M28

BBU-0027



18
104

海獸獵業法策

目次

我國之富源 附外國密獵船之統計

外國密獵船防禦之急務

北海之拓殖

我國之實業

起業之由來 附勸語

外國密獵船探討記事

附 外國密獵船之一般 組織 整理 職員之給料 出獵之準備 獵場之實況

獵場之區域 生產時期 獵場之時期 附農商務大臣之演說

政府之方針 附概則案

北門會設立之主旨

獵業着手豫算



シテ海産物ニ因テ成立セル國土ナルヨリ此ノ名アリト云フノ寧ロ適評ナルヲ知ル
 我國魚族ノ夥多ナルヲ四面海水ノ至ル所悉ク魚族ナラサルハナク是レ所謂濱ノ眞砂子ハ盡
 クルトモ魚族ノ種子ハ盡キズト云フガ如キナリ其他鯨ノ如キ一度近海ヲ航海スルキハ渺茫
 タル大平洋恰モ鏡面ヲ渡ルカ如キ水上ニ突如トシテ激浪ヲ生シ潮水ヲ散布スルヲ驟雨ノ如
 ク乍チニ大船ノ水中ニ浮沈スルカ如キ瞥見慄然タラシムルモノハ悉ク鯨ノ海上ニ浮游ス
 ルモノナリ又彼ノ臘肭獸ノ如キハ恰モ碁子ノ盤上ニ羅列スルカ如ク群集シタルヲ見ルベシ
 此ノ如ニシテ年々繁殖スルモノ其數殆ント幾億萬ナルヲ知ルヘカラス今之レヲ價額ニ換算
 スルキハ實ニ擧テ數フベカラサルナリ是レ即チ我國ノ富源ハ陸産ヨリハ寧ロ海産ニアルカ
 如ク海國ト絶叫スル所以ナリ
 外國密獵船ノ我國近海ニ出沒スルハ今日ノ如クニ甚ダシカラサリシモ英米國間ノ國際條約
 締結シテ密獵船ノ巢窟タル彼ノベリリング海峽ニ鎖鑰ヲ設ケラレ其根據ヲ失ヒタルヨリ頓
 ニ影響シテ夥多ノ密獵船我日本海ニ侵入スルニ至リシナリ
 然リ而シテ是等密獵船ノ年々捕獲スル所得ノ概畧ハ左ノ如シ

明治二十六年 度

百三拾六艘

一 密獵船ノ總數

但本船ハ英領ビクトリヤ、バンクハリー米國サンフランシスコ等ヨリ出船スル者ナリ

一 臘肭獸捕獲總數

但本船一艘ノ捕獲平均千六百四十五頭餘

二十二万三千八百二十頭

一金五百三十七万一千六百八十弗

總皮革收入高

但本船一艘ノ所得三万九千四百九十七弗餘

右ハ米國桑港市場一皮二十四弗平均ヲ以テ立算ス是レ質地斯業ニ從事シ會社ト直
接ニ計算セシモノナリ

一金一千〇七十四万三千三百六十圓

明治二十七年 度

百六拾五艘

一 密獵船總數

但出處前同斷

二十四万六千八百四十頭

一 臘肭獸捕獲總數

但本船一艘ノ捕獲平均一千四百九十六頭

總皮革收入高

一金四百四十四万三千百二十弗

但本船一艘ノ所得二万六千九百二十一弗餘

右ハ英國ロンドン市場一皮十八弗平均ヲ以テ起算ス

一金七百四十万七千圓餘

但金貨五十二ニ對スル銀貨百ノ割合ナリ

以上ノ利益ヲ得ルニ獵船一艘ニ付テ要スル資金ノ概算ハ左ノ如シ

一金一万四千七百七十弗

經費

此内譯

一金三千五百弗

獵船一艘

但二本櫓七十噸乃至八十五噸ノモノ其他船具一式

端艇七艘

一金二百十弗

但附屬品一式共一隻三十弗

獵銃二十挺

一金七百五十弗

但散彈銃一挺五十弗單銃一挺二十五弗各十挺

船長俸給

此合計四千四百六十弗

一金八百弗

但一ヶ月百弗トシ捕獲頭數ニ應シ若干ノ手當金ヲ與フルコアリ

運轉手俸給

一金四百弗

但一ヶ月五十弗トシ外ニ歩合等ヲ給與セズ

銃手歩合

一金三千弗

但一人ノ歩合一頭ニ付三弗トシ六人分

水夫歩合

一金二千五百二十弗

但一人ノ歩合百頭ニ付一皮トシ十四人分其外水夫長ニハ若干ノ手當金ヲ與ルコアリ

賄人俸給

一金四百弗

但一ヶ月五十弗トス

小使俸給

一金百六十弗

但一ヶ月二十弗トス

結晶鹽十噸

此合計七千二百八十弗

一金百五十弗

食料

一金二千八百八十弗

但二十四人乗込トシ一人前一ヶ月十五弗トス

此合計金三千〇三十弗

右ノ計算ハ獵業期ヲ八ヶ月トシ捕獲頭數ヲ千頭トシ一頭ノ價ヲ十八弗ト假定シテ起算セルモノナリ其如何ナル利益ヲ生スルモノナルカハ明治二十六年以來ノ收益如何ヲ對照セハ蓋シ思ヒ半ニ過クヘシ

斯ノ如クニシテ數百萬ノ巨利ハ年々彼密獵船ノ隄斷スル所ト爲リツ、アルナリ我國近代多少米穀其他生糸茶等海外輸出ヲ爲スニ至リタルモ其勞力ト賃銀及ヒ資金ヲ合算スル片ハ収

一金七百四十万七千圓餘

但金貨五十二ニ對スル銀貨百ノ割合ナリ

以上ノ利益ヲ得ルニ獵船一艘ニ付テ要スル資金ノ概算ハ左ノ如シ

一金一万四千七百七十弗

經費

此内譯

一金三千五百弗

獵船一艘

但二本櫓七十噸乃至八十五噸ノモノ其他船具一式

端艇七艘

一金二百十弗

但附屬品一式共一隻三十弗

獵銃二十挺

一金七百五十弗

但散彈銃一挺五十弗單銃一挺二十五弗各十挺

此合計四千四百六十弗

船長俸給

一金八百弗

但一ヶ月百弗トシ捕獲頭數ニ應シ若干ノ手當金ヲ與フルコアリ

運轉手俸給

一金四百弗

但一ヶ月五十弗トシ外ニ歩合等ヲ給與セズ

銃手歩合

一金三千弗

但一人ノ歩合一頭ニ付三弗トシ六人分

水夫歩合

一金二千五百二十弗

但一人ノ歩合百頭ニ付一皮トシ十四人分其外水夫長ニハ若干ノ手當金ヲ與ルコアリ

賄人俸給

一金四百弗

但一ヶ月五十弗トス

小使俸給

一金百六十弗

但一ヶ月二十弗トス

此合計七千二百八十弗

結晶鹽十噸

一金百五十弗

食料

一金二千八百八十弗

但二十四人乗込トシ一人前一ヶ月十五弗トス

此合計金三千〇三十弗

右ノ計算ハ獵業期ヲ八ヶ月トシ捕獲頭數ヲ千頭トシ一頭ノ價ヲ十八弗ト假定シテ起算

セルモノナリ其如何ナル利益ヲ生スルモノナルカハ明治二十六年以來ノ收益如何ヲ對

照セハ蓋シ思ヒ半ニ過クヘシ

斯ノ如クニシテ數百万ノ巨利ハ年々彼密獵船ノ襲斷スル所ト爲リツ、アルナリ我國近代多

少米穀其他生糸茶等海外輸出ヲ爲スニ至リタルモ其勞力ト賃銀及ヒ資金ヲ合算スルキハ収

益ノ薄弱ナルヲ甚シク唯僅カニ内國ニ於テ販賣セルニ優レリト云フニ過キサルベシ然ルニ
 臘虎臘肭獸皮革ノ如何ニ海外市場ニ高價ヲ顯ハセルカヲ考フルキハ實ニ我國有數ノ輸物
 ナリ外交貿易ノ將ニ繁劇ナラントスル今日ニ於テハ我國ノ實業家タルモノ須ラク社會ノ大
 勢ニ注目シ我商權ヲ振起シ以テ外國ト輸贏ヲ決セシムルハアルベカラズ
 嗚呼斯ノ如キ莫大ノ富源ヲ彼ノ密獵船ノ爲メニ隕斷セラル、モ全ク我カ國民ノ義務ヲ放任
 シタルニ外ナラサルナリ故ニ余ハ一個人ノ榮利ヲ喃々スルモノニアラス實ニ我カ國ノ富源
 チシテ万代不變ノ寶庫タラシメンカ爲メニ大ヒニ密獵船ノ防禦策ヲ講セント欲スルモノナ
 リ

外國密獵船防禦ノ急務

渺茫タル太平洋ハ社會ノ共有物ニシテ何人モ之レカ主權ヲ有スルモノタラサルハ言ヲ待タ
 ス然レモ彼ノ獵業船ノ如キハ常ニ遠洋獵業ヲ名トシテ他ノ領海内ニ侵入シテ密獵スルハ往
 々世人ノ目撃スル所タリ特ニ臘虎臘肭獸獵業船ノ如キハ殆ント密獵ヲ以テ本業トスルモノ
 ナルコトハ夙ニ世人ノ知ル所タリ其先例ノ著シキモノハ彼ノベリリシク海峽ニ於テ明カナリ
 故ニ米國政府ノ如キハ幾多ノ腦漿ヲ絞リ遂ニ國際調停會議ナルモノヲ開キ之カ取締ヲ爲ス
 ニ至リシナリ

西曆千八百八十五年ノ如キハ皮革ノ價無慮三千万弗ニ上リベリリシク海島ハ米國歲入ノ一

大財源ナリシヲ以テ同政府ハ今日猶軍艦ヲ同海峽ニ派出シ最モ嚴重ニ密獵船ノ侵入ヲ防禦
 セリ米國ノ如キ富國ニシテ猶此ノ如シ我國ニ於テ之カ防禦ヲ怠ランカ數万ノ財源ハ彼ノ異
 邦人ノ掌中ニ飯ス實ニ洪歎ニ堪ヘサルナリ然レモ彼ノ外國密獵船ノ事ノ如キハ必ズ國際上
 ノ關係ヲ生スヘキヲ以テ一己人ノ能ク防禦スヘキニアラス苟モ政府ノ保護ヲ要セサルヲ得
 ス假令政府ノ保護ナキモ吾人ハ信ス業務ノ實際ニ於テハ數十艘ノ獵船ヲ以テ彼等ト競争シ
 勝算我ニ在リ疑ハサルナリ

然レモ又我國今日ノ狀勢ヲ察スルキハ一時數十艘ノ獵船ヲ造リ彼等ト競争スルコトノ行ハ
 レ難キヲ知ル故ニ余ハ日清戰鬪終結ノ上ハ數艘ノ軍艦ヲ派出シテ外船ノ侵犯ヲ防禦シ我國
 ノ獵業者ヲ勸誘保護セラル、ニ至ラハ實ニ其宜ヲ得タル者トス
 國際公法上領海權ノ規定ハ三哩以内ヲ以テ自國ノ領海トスルモ該法ヲ獵業區域ノ限度トス
 ルキハ道理ニ相反スルノ結果ヲ顯出スヘシ何トナレハ立法者カ何故ニ三哩ヲ以テ各自國ノ
 領海トシテ之レカ主權ヲ與ヘタルカヲ一考スルキハ各自國ノ利益ヲ保護セントノ意タルヤ
 明カナリ

今此ノ規定ヲ海獸海魚ニマテ適用セントスルキハ特ニ立法者カ與ヘタル領海主權者ノ利益
 ハ主權者以外ニ於テ其大部ヲ占有スルニ至リ主權者ニ與ヘタル特權ハ寧ロ徒法ニ歸スルノ
 感ナキヲ得サルナリ

臘虎臘肭獸ノ如キハ沿岸ニ產育スルモノナレハ其國ノ產物タルハ亦掩フヘカラサルノ事

質タリ然レモ時々游泳若クハ食餌ヲ求ムルカ爲メニ陸地ヲ去ルコト百哩甚シキハ二百哩モ遠洋ニ出ルモノナレハ常ニ領海三哩以外ニアリ
 此時ニ當リ三哩以外ニ於テ各自隨意ニ之ヲ捕獲シ得ルモノトセバ主權者ノ利益ヲ害シ且ツ立法ノ精神ヲ失ハシムルヤ必セリ是レ實ニ道理ニ悖戾スル者ナルヲ以テ此法意タル恐ラシク獵業ニ關スル場合ヲ想像セズシテ普通國境ニ關シ規定シタル不備ノ法文ヲラサルナキカノ疑ナキ能ハサルナリ

如何ニ不備ノ公法ト雖モ其變更ナキ限リハ之レカ法下ニ服セサルヲ得ス是ニ於テ乎缺典ノ補遺トシテ隣邦國ト同盟シ適宜ニ領海ノ區域ヲ規定スル必用ヲ生スルカ如シ是則相互ノ間ニ於ケル合意ノ契約ニシテ利害ノ關係ヲ共ニスルモノナルヲ以テ最モ公平ニシテ最モ完備ノ良法タルヲ信ス况ンヤ我國治外法權ノ撤去セラレサル今日ニ於テナヤ
 既ニ隣邦國ノ領海同盟成立ノ後ハ政府ヨリ軍艦ヲ派出シテ互ニ領海内ヲ警護シ更ニ彼我競爭ノ必要ナキヲ以テ初テ獵虎臘獸生育時期ハ自國人ト雖モ濫獲ヲ禁シ斯業ニ從事セシムルコトヲ得テ永遠ニ臘虎臘獸ノ蕃息ヲ全フシ天與ノ財源ヲ無限ニ保ツニ至ルベシ若シ夫然ラサルハ此一大財源モ數年ヲ出テスシテ其形跡タニ存セサルニ至ルハ南米ノ前轍ニ徴シ甚タ照然タリ識者夫レ之レヲ察セヨ

北海ノ拓殖

我國ハ全道既ニ海產物ヲ以テ一大富源ト爲スモ其最大ナル者ハ北海道ナリ
 北海道拓殖ノ事タル近來頗リニ世人ノ唱道スル所ト雖モ其未ダ好結果ヲ奏シタルモノアルヲ聞カサルナリ偶一二ノ企業家アルモ直ニ失敗シテ亦省ミルモノナキカ如シ果シテ北海ノ地爲スアルニ足ラサル乎決シテ然ラズ蓋シ方法ノ當ヲ得サルニ他ナラサル如シ故ニ余ハ同道拓殖ノ要ハ海產ニ因ラズニハ到底完全ナル拓殖ヲ奏スルヲ得サルコトヲ明言セントスルモノナリ而シテ目下同道產出物中尤モ多額ナルモノニシテ徒ニ異邦人ノ爲メニ密獵セラル、モノハ海獸類ナリ此事タル當ニ我國益ノ幾分ヲ減少スルノミナラズ多少我國權ノ幾分ヲ侵害セラル、ノ憾ナキ能ハス故ニ余ノ志ハ一身ヲ犧牲ニシ國家ノ爲メ斯業ヲ擴張シ同道ノ拓殖ヲ爲、傍ラ密獵船ノ侵害ヲ防禦シ富國強兵ノ一助ヲテシメントスルニ在リ

我國ノ實業

我國ノ版圖ハ小ナリト雖モ風土良好ニシテ山野海濱ニ富メルヲ以テ其名海外ニ高シ是レ獨リ山水ノ秀麗ナルノミニアラズ治政法度ニ至テモ遙ニ文明諸國ヲ凌駕スル者アルコトヨリ然レバ實業ノ不振ト商權ノ發達セサルトハ實ニ短所ト云ハサルヲ得ス我國ハ風土宜ヲ得海陸ノ物産ニ富ムモ實業社界ヲ見ルニ寂トシテ聲ナキハ大ニ吾人カ講究スベキノコトナリ蓋シ我國ノ實業家若シクハ資力家ハ唯々目前ノ小利ニ眩惑シテ嘗テ大業ヲ企圖スルノ感念ナシ冒險業ノ恐ルヘキヲ知テ莫大ノ營利ハ常ニ通常外ニ在ルモノナルヲ知ラス唯々因循姑息ノ小

十
腦ニ支配セラル、ニ起因スルモノタルヘシ偶冒險家アリト雖、凡資力ニ乏シク空シク利器ヲ
懷抱シテ茅屋ニ仰吟スルノミニシテ實ニ資力家ノ一臂ヲ添ユルコトヲ聞カサルナリ資力家
ノ頭腦ヲ一洗シテ將來此弊ヲ去ルコアラサレバ我國ハ遂ニ不生產國ノ名ヲ以テ衰亡ニ至ラ
ンノミ此ノ如キノ言ハ發スルニ忍ヒスト雖、凡勢ヒ止ムヲ得サルニ出ツ
我國ノ實業家ナリ資力家ハ概テ公共事業ノ如何ニ國家ニ關係ヲ有スルカヲ知ラス唯ニ自己
目前ノ小利ヲ慮ルノ外ナキカ如シト雖モ決シテ我國民ハ國家的觀念ニ乏シキノアラズ恐ラ
クハ公共事業ト個人的事業ト利害得失ハ如何ニ國家ト云フ大体ニ關係ヲ有スルカヲ判斷ス
ル知識ニ乏シキカ或ハ未ダ舊套ヲ脱セサルカ爲ナルヘシ我國今日ノ境界ハ實ニ多望多事ナ
ルヲ以テ尤モ兩家ノ注意ヲ請ハサルベガラサルノ時代ナリ
我國ハ已ニ天興ノ幸福ニ富ムヲ以テ人工ノ妙技ヲ應用シ活潑ノ運動ヲ爲シ剛膽ノ氣概ヲ養
ヒ以テ一大偉業ヲ經營スベシ失敗ハ恐ル、ニ足ラズ失敗ハ必ラズシモ惡シキノアラズ失敗
ハ經驗ノ資料ニシテ經驗ハ遂業ノ基礎タレハナリ故ニ經驗アル剛膽ノ士ハ即チ成業ノ人ナ
リ資力家ハ宜シク其志ヲ贊ク其業ヲ達セシムルヲ勉ムベシ是レ蓋シ資力家ノ有爲者ニ對
スル否國家ニ對スル義務タルベシ斯ノ如ク兩者相待テ始テ國家ノ偉業ヲ奏スベキナリ
彼ノ歐米各國カ今日ノ如ク世界ニ雄視スルノ地位ヲ得タルモノハ國民ノ國家的事業ヲ重
シ資力家カ有爲者ヲ助ケ公共ノ事業ヲ發達セシメタルノ美果タルヘシ

起業ノ由來

余ハ明治廿三年ヲ以テ和佛法律學校ヲ卒業シ爾來頻リニ我國殖産ノ不振ヲ憂フルト同時ニ
專ラ志チ北海道ニ致シ大同道ノ拓殖事業ヲ起サンコトヲ思ヘリ偶々從五位岡本監輔氏ノ發
企ニ係ル千島義會ノ特別會員ト爲リ幾干モノク同會ノ遊說委員ニ推薦セラレ大ニ運動ヲ試
ミントセリ

是時ニ當テ我 叡聖ナル天皇陛下ニハ千島ノ長ク無人ノ地ト爲リ徒ニ外人ノ密獵ヲ擅ニス
ルヲ聞召サレ特ニ片岡侍從ヲ發遣シ同島ノ實況ヲ探討セラレタリ左ニ記スルモノハ當時ノ
勅語ト云フ

千島探討ノ事 朕頗ル其必要ヲ認ム而シテ侍臣多クハ蒲柳ノ質ニシテ之レカ任ニ
堪ヘサルヲ憂フ之レヲ能クセント思フモノハ只汝利和ノミ風雪ノ裡 朕實ニ汝ヲ

遣ルニ忍ヒスト雖、凡汝能ク之ニ赴クヤ否ヤ

此聖旨ヲ拜聽シ益憤勵シ身ヲ犧牲ニ供スルノ志ヲ決シ屢公開演說ヲ爲シ同島拓殖事業ノ急
ナルコトヲ社會ニ唱道セリ次テ明治二十五年ノ春第四帝國議會ニ對シ千島事業保護ノ請願ヲ
爲スノ議ヲ贊成シタルモ不幸ニシテ否決セラレタリ

此ヨリ先キ明治廿四年ノ冬海軍大尉郡司成忠氏新ニ一團體ヲ設ケ我千島義會ニ向テ合同セ
ンコトヲ要求セリ北門ノ孤島素ヨリ角立スヘキノアラサルヲ以テ余輩ハ合同主唱ノ會員數名

ト共ニ屢々大尉ト交渉シ合同ノ準備殆ント調ヒ爲ニ大會ヲ開カントスルニ際シ會員中反對
 スル者アリテ其事ヲ遂クルルニ至ラザリシ
 千島事業ノ目的ヲ達スルニハ第一彼ノ密獵船ノ事情探知ニアルヲ思ヒ明治廿六年二月單身
 南洋ノ小笠原島ニ渡航シ其事ニ着手セシニ密獵船ノ裝置方法及ヒ構造若シハ獵法等實地視
 察ノ必要ヲ感シヨリ然レモ其機ヲ得ズ殆ト失望セシカ數日ノ後彼ノ密獵船數十艘一時同
 島ニ入港シ意外ノ好機ヲ得ルニ至レリ是ニ於テ余ハ幾多ノ困難ヲ排除シ冒險ヲ願ニス直ニ
 水夫ノ勞ヲ採リ同島ヲ出帆シ夫レヨリ日本海及露領海ニ於テ實地獵業ニ從事シ同年十月五
 日無事米國桑港ニ着スルヲ得タリ爾後内外貿易上ニ關スル同國ノ事情ヲ探知シ且シ密獵船
 ノ組織及ヒ皮革ニ關スル實況ニ付テ大ニ得ル所アリタリ
 米國桑港ニ滯在中ハ在留日本人ノ間ニ成立セシ東洋新聞主筆ノ囑托ヲ受ケタルヲ以テ明治
 廿七年十二月ニ至ルマテ新聞事業ニ從事シ大ニ内外ノ事情ヲ知ルノ捷徑ヲ得タリ特ニ彼ノ
 ベーリング海峡ニ於ケル海獸獵業ニ關スル英米國間ノ交渉始末ヲ取調ベ我國密獵船ノ横行
 ニ付テ大ニ防禦ノ良材ヲ得タリ
 歸朝ノ後ハ岡本郡司ノ諸氏ト提携シ大ニ外國密獵船ノ侵入ヲ防禦シ以テ北海ノ拓殖事業ヲ
 企圖セントセシモ岡本氏ハ既ニ京ヲ去テ地方ニ校長トナリ郡司大尉ハ征清ノ軍ニ從ヘリト
 嗚呼大尉ノ任余其輕カラサルヲ知ル然レモ北海拓殖ノ任亦豈ニ輕カラシヤ苟クモ國家ノ偉
 業ヲ爲サントスルモノ輕々ニ其成功ヲ望ムヘカラス千辛万苦始メテ松柏ノ操節ヲ見ルヘシ

是ノ故ニ一タヒハ二氏ノ業ヲ爲ス冷淡ニシテ膽力ナキヲ疑ヒタルモ二氏ニシテ若シ君命ノ
 止ミ難キヲ説カハ又何ヲカ云ハン
 今ヤ北海ニ伯樂ナシ余假令伯樂ノ能ナキモ豈ニ敢テ座視スヘケンヤ高瀬寅昌不肖ナリト雖
 モ二氏ナキノ故ヲ以テ素志ヲ變スルモノニアラサルナリ
 然レモ斯ノ大業ヲ企テントスルニ單身以テ能ク爲スヘキニアラサルナリ依テ大ニ同志ヲ求
 メ斯業ヲ起サントス而シテ苟モ國家ニ關スル事業タルヲ以テ大ニ政府ノ意向ニ注意ヲ要シ
 余ノ歸朝スルヤ直ニ榎本農商務大臣ヲ官邸ニ訪問シテ密獵船探討ニ關スル顛末ヲ陳述セシ
 ニ同大臣ノ傾聽ヲ辱フシ實地閱歷經驗セル探討記事ヲ提出スベシトス命ニ依リ之ヲ進呈セ
 リ時ニ明治廿八年一月ナリキ
 左ノ記事ハ即チ榎本大臣ニ呈出セシ榎本ニシテ余カ外國密獵船探討ノ概要ヲ摘載シタルモ
 ノナリ勿卒ノ間索ヨリ文字ノ如キ拙陋ヲ免カレスト雖モ以テ外國密獵船ノ組織及利害ノ關
 係ヲ知ルヘキカ

外國密獵船探討記事

高瀬寅昌謹誌

我北海道千島近海ニ於ケル外國密獵船ノ組織方法及ヒ裝置及構造等ヲ探討シ國益ヲ補裨セシ
 時期ニ明治廿六年三月單身外國船ニ乘込テ日本近海ニ於テ臘胸獸獵業ニ從事シ夫レヨリ露

領海ニ侵入シ殆ント一年間斯業ニ隨從シ實地經驗シ得タル要領ヲ摘撮シ猶米國在留中取調
入タル記事ヲ附記シテ以テ參考ニ供セントス

組織

本船ハ堂々タル一會社ヨリ成立セルモノニシテ其基本ノ確定堅固ナルコト我國ノ且興暮廢
會社ノ比ニアラサルナリ是等會社ノ所有ナル船舶ハ五十噸乃至百噸位ノモノ少クモ數十艘
ヲ所持セリ而シテ年々密獵ノ爲メ他ノ管轄政府ヨリ沒収セラレ或ハ流失スルモノ少カラスト
雖モ毫毛痛痒ヲ感セサルモノ、如シ是レ即チ會社ヲ堅固ナルニ因ルト雖モ斯業ノ收利莫大
ナルコト外ナラサルヲ知ルナリ
然ラサルニ於テハ如何ナル會社ト雖モ出入相償ハサルノ會社ハ維持得ヘキモノニアラサ
レハナリ某會社ノ如キハ蒸氣船ヲ以テ斯業ニ從事シテ其規模ノ擴大ナルニ驚ケリ斯業ニ
蒸氣船ヲ使用スルノ便ハ速力ノ迅速ナルヨリ他ノ守衛船ノ追跡ヲ免ル、又各帆前船ノ收
獲セル皮革ヲ總集シテ歸船ス假令ハ警衛船ニ捕縛セラレ、モ既ニ送致セル分ハ政府ヨリ沒
收セラレ、ノ恐レナケレハ利益上大ニ便益アルカ故ナルベシ

整理

船内ノ整理ハ各船長萬般ヲ監督シ運轉手ヲ之ヲ補助セシメ水夫ハ水夫中ノ老練者ヲ撰拔
シ水夫長トシテ水夫ヲ監督セシム之レ悉ク船長ノ命ニ依ルナリ
航海中ハ常ニ運轉手并ニ銃者ヲシテ各順番ヲ以テ水夫ヲ監督指揮スルニ悉ク號令ヲ發シ船

内ノ行事ヲ爲サシムル等其紀律ノ嚴重ナルヲ恰モ軍隊組織ニ於ケルモノ、如シ
職員給料

船長ハ會社トノ特約ニ因ルモノニシテ各自異ナルモノ、如シト雖モ多クハ其收獲ノ幾分ヲ
所得スルモノ、如シ然レドモ又若干圓ノ豫定ヲ以テ船長一切ヲ受負フコトアリ故ニ一定ノ給
額ノ標準アルコトナシ職員ハ運轉手水夫長小使賄人等ハ該船ノ職員トシテ一定ノ給料ヲ受クル
ナリ運轉手ハ船内ノ職務ニ付テハ一定ノ俸給ヲ得ルモ獵業ニ於ケル歩合ハ他ノ銃者ト異ナ
ルコトナシ尤モ銃者ト雖モ各自特約ヲ有スルモノアリテ一定セサルカ如シ是レ全ク技能ニ關
ズルヨリ自然異度ヲ生スルモノ、如シ水夫長ハ船内ニ於ケル職務ニ對スル給料ヲ受クルモ
獵業ニ於ケル歩合ハ他ノ水夫ト同一ナリ小使賄方ハ一定ノ給料ヲ受クルモノ、如シト雖モ
會社ニ因リテハ小使ノ如キハ水夫ト同一ノ歩合ヲ以テ使用スルモノアリ又水夫ト雖モ一定
ノ給料ヲ以テ雇入ル、モノアリ是等ハ所獵ノ多少ニ關セス一ヶ月三十弗ヲ給與スレハ可ナ
ルモノ、如シ歩合ハ各船異ナルモノ船内ノ所獵總計百匹ニ付一皮ノ價格ヲ分與スルコトノ例
アリ是等ハ會社ト船長ノ意見ニ因リテ定ムルモノ、如シ故ニ會社ノ異ナルヨリ自ラ其所定
同一ナラサルカ如シ

出獵ノ準備

本船ニハ日測器晴雨計磁器等ヲ具備シ船長常ニ日測ニ依リ陸地ノ距離航海里數等ヲ暗知シ
且ツ航海圖ノ明細ナルモノヲ所持シ之ニ對照シテ其方向ヲ取り彼邊ノ獵業ニ適不適ナルヲ

察知スルカ如キ其航海ノ敏達ナルヲ恰モ囊中ニ物ヲ探クルカ如シ而シテ獵場ニ至レハ本船ノ進行ヲ止メ天測器ニヨリ船長出獵ヲ命スルナリ尤モ獵場ニ至レハ夜中ノ如キハ臘膾獸自ヲ船尾ニ追跡スルヲ以テ豫メ臘膾獸ノ存在セルヲ知ルナリ

出獵ニハ一天風ナク晴朗ノ日ヲ以テ最上ノ好天氣トス然レモ端艇ノ進行ニハ少シク風アリテ波荒カラサルノ日ヲ以テ便ナルカ如シ

北海地方ハ雲霧濃厚ニ寸尺ヲ辨知セサルヲ常ニ殆ント天光ヲ見サルヲ一週日若クハ期月ニ及フコアルカ如キハ稀ナラサルナリ故ニ各端艇ハ本船トノ居所ヲ失ヒ歸途ヲ失スルコト往々ニシテ是レアリ是等ノ爲メ本船ニハ大砲ヲ具備シテ之ヲ砲發シテ歸船若クハ居所及ヒ非常ノ警戒ヲ合圖スルナリ端艇ニハ各自喇叭獵銃等ヲ以テ應答シ夜分ニ東火ヲ點シテ本船ノ居所ヲ示スカ如キ其有様恰モ戰場ニ於ケルノ心地タルナリ

本船噸數ノ差等ニ依リ端艇ノ數モ多少アレモ概テ五十噸以上百噸以下ニハ各船六艘若クハ八艘ヲ以テ獵用ニ充テ外ニ船長用端艇ヲ備置キ臨時船長本船ノ患ヒナキ好天氣ニハ出獵スルナリ出獵ノキハ各端艇順番ヲ以テ上下ヲ爲シ列ヲ連テ方向ヲ同フテ進行シ本船又之レニ尾行シテ各艇ヲ守衛セリ若シ天測器ニ異狀ヲ呈シ天變或ハ危險アリト思考シタルキハ本船ニ旗幟(國旗)ヲ掲ゲ歸船ヲ命スルナリ又方向ヲ轉スルキハ如キ凡テ非常ヲ報スルキハ必ラス旗幟ヲ掲ケ合圖スルヲ例トセリ若シ雲霧等ノ爲メ呎尺ヲ辨セサルキハ如キハ掲旗其効ヲ見サルヨリ發砲シテ之ニ代ユルナリ實ニ其手續ノ準備至レリ盡セルモノナリ

出獵中尤モ危險ナルハ警衛船(密獵船ニアリテハ)ニ追捕セラレハ勿論ナルモ突然遠ク本船ヲ距ルトキ雲霧ヲ遮リ其所在ヲ辨シ難ク本船ノ號砲モ達セサルカ如キ場合ニ颶風雨俄ニ起リ爲ニ劇浪ヲ生シ暗黒寸尺ヲ知ルニ由ナキノミナラス將ニ沈没セントスルノ勢ヒニ際スル場合ノ如キ亦實ニ危險ナルヲ覺ユ其他逆風ノ起リシキ本船ヲ見ツ、アルモ之ニ達スルヲ得サル時ノ如キ其他危險ノ念ナキニアラス實ニ斯業ノ冒險業タルハ言ヲ待サルナリ

獵場ノ實況

常ニ白浪怒濤ヲ生シ巍然タル大山モ爲ニ崩潰セントスルカ如キ大洋モ晴天一点ノ雲ヲ見サルノ好日ニ至リテハ水面油々乎トシテ恰モ鏡面ヲ走ルカ如ク遙ニ諸山ノ蕩々タルヲ眺メ徐々ニ進行スルカ如キ亦一大快事タルヲ覺ユルナリ而シテ遠望スレバ波上一枯木ノ漂流スルカ如キモノアルヲ見ル因テ柁ヲ轉シ接近熟視スルニ流木ニアラスシテ臘膾獸ノ熟眠シテ潮流ニ任せ流下スルナリ直ニ用意セル銃ヲ取り接近シ殆五六尺(最近ノ場合)ニ至リ發銃シテ捕獲スルナリ斯獸ノ如キ睡眠ヲ嗜ムモノ他ニ其比ヲ見ス而シテ良好ノ場所ニ至レハ臘膾獸ヲ以テ恰モ海面ヲ掩フカ如キノ觀アルナリ斯獸ハ各所ニ群ヲ爲シ鳴聲ヲ發シ戯レツ、アリ或ハ端艇ヲ見却テ物怪シ氣ニ追及シテ捕獲セラル、モノ多シ其愚モ亦甚シキナリ

余ハ斯業ニ從事中尤モ憫情ヲ發セシハ産後幼兒ヲ抱キツ、遁去ラントスルヲ銃殺スル是レナリ實ニ人情ノ忍ヒサルモノアリシ

獵船出入ノ時期

大抵十月ヲ以テ各船歸國シ水夫職員等ヲ解雇シ皮革ヲ各會社ニ販賣シ直ニ船体ノ修繕ヲ爲シ發船ノ準備ヲ爲シ食品及需用品等ヲ購求シ人員雇入ヲ爲シ翌年二月三月ヲ以テ各船出發スルモノ、如シ本國ヲ發船シテ何レモ我日本ニ至ルモノハ小笠原島橫濱箱館等ニ入港シ此地ニ於テ出獵ノ準備ヲ爲シ三月下旬四月上旬ヨリ獵業ニ着手スルモノ、如シ而シテ八月九月ヲ以テ終獵シ各船歸途ニ就キ十月初旬ニハ歸着シ得ルモノ、如シ之レ十月以後三月ニ至ルノ時期ハ海上平穩ナラズ特ニ獵業ノ季節ニ熟セサルヲ以テナラン假令獵業期ナルニモセヨ海上不穩ナレハ實地獵業ニ從事スルヲ得サルヲ以テナリ

小笠原島ハ開港場ニアラサルヲ以テ何種ノ船舶タルヲ問ハズ外國船ハ公然入港スルヲ得サルハ公法ノ許サ、ル處タリ然レモ島廳ハ是等獵船ヲ一ノ漂流船ト見做シ十分ノ注意ヲ爲シ上陸ヲ默許シツ、アリシ要スルニ島民ノ利得ヲ添ユルアルヲ以テノ故ナリトハ某氏ノ言ナリシ現ニ昨年ノ如キハ二三十艘モ入港セシヨリ市場爲ニ一大盛況ヲ加ヘタリ

各船ノ同島ニ入港スルノ利益ハ入港稅ヲ要セサルト飲水ノ無料ニソ吸ミ採ルヲ得ルト一ハ歸化人中多年斯業ニ從事スル銃者雇入等ノ便益アルカ故ナリト

箱館ハ公然ノ開港場ナルヲ以テ入港スルハ當然ノコトナリ然レモ彼レ密獵船ノ如キハ常ニ脱稅ノ利ヲ謀リテ避クト

同港ニ於ケル稅則ハ燈台内ニ入ラサレハ課稅セラレサルヲ以テ概テ燈臺外ニアリシ然レモ陸又ハ物品ノ賣買交易等ノ如キ更ニ内外ノ區別アラサルヲ以テ不便ヲ感スルコトナク諸事ヲ

辨シタリシ實ニ我國稅權ノ薄弱ナルニ驚キタリ

余ノ乘込ミタル本船出入ノ順序ハ二月ヲ以テ米國桑港ヲ發シ三月初旬我小笠原島ニ入港シ同月下旬同港ヲ出帆シ六月箱館港ニ入り七月千島群島ニ一ナル志古丹島ニ入り翌日更ニ出帆シテ露領海ニ向テ發船シ殆ト壹週日ヲ經テ獵場ニ至リ止マルコトニケ月余ニシテ九月ヲ以テ歸途ニ就キ十月初旬桑港ニ着セリ

獵場ノ區域

大凡陸前ノ金華山沖ヨリ始獵シ夫レヨリ漸々北海ニ進入シ千島近海ニ於テ一時終獵シ更ニ露領海ニ進行スルナリ余ノ乘込ミタル本船ノ所獵ノ尤モ多カリシハ陸奥ノ犬吠崎沖ナリシ同所ニ至ルヤ海面一体ニ獸群散在シ所トシ海獸ヲ見サルコトナキカ如ク之ニ次クハ北海ニ入り落石ノ燈臺アリシ近海ナリシ故ニ日本海ト露海ヲ比較スルハ日本海ヲ以テ獵場優等ナリトモサルヲ得ス今年ノ如キハ日本海ニ着目シテ發船セルモノ多キヲ實ニ昨年ニ陪從セシナラント思料セラル、ナリ

生産時期

膾獸ハ七八月ヲ以テ生産期トシ而シテ産兒ハ數子ナラスシテ必ラス一子ナリ故ニ他ノ猫犬ノ如ク容易ニ繁殖セサルナリ然ルニ彼ノ密獵船ハ此尤モ必要ナル好殖時期ニ於テ捕獲スルヨリ年々減少シ遂ニハ其跡ヲ絶ツコ至ルヘキナリ故ニ急速之カ防禦法ヲ講シ且ツ内國人ト雖モ生産殖時期ニ於テハ獵スルヲ得カラシメ以テ繁殖法ヲ講セラレメコトヲ希望ス

宜ナル哉近時米國政府ハ上下兩院ニ於テ議定セル同國ベリリノ海峽ニ於ケル禁獵法案ヲ認可シテ直ニ之ヲ布設シ特ニ警備艦隊ヲ派遣スル、カ如キノ準備ニ着手セラレシナリ然ルニ同國ノ如キモ格別軍艦ノ遊艦ナク何レモ防禦ニ必要ナルヨリ殆シト窮シ居ルトノコトナリシヲ以テ亦同國ノ海防上ノ準備ヲ推知セラレ、ナリ

獨リ米政府ノミナラス彼ノ加奈陀政府ノ如キモ亦合衆國人ノ漁獵業禁止ノ法案ヲ設置セラレ、ニ至レリ各國漁獵業ニ對スル注意斯ノ如シ然ルニ我日本國ニ至リテハ依然トシテ彼ノ密獵ヲ傍觀シ默過シ去ルカ如キハ忍ヒサル所ナリ縱令治外法權ノ撤去セラレサル今日ト雖モ他ニ好案ナキコアラサルヘシ

斯業ニ對スル注意ハ獨リ政府ノ責任ノミニ歸スヘキコアラス國民タモモ國利ヲ重ニスルニ於テハ須ラシク防禦法ヲ講セサルヘカラス特ニ我國ノ如キ產出物ニ乏シキ國ニ於テハ是等ノ事業實ニ輕視スヘキコアラサズナルナリ

大凡密獵船ノ數ヲ百艘トスルモ其收穫一艘ニ付少クモ千以上ノ收穫アルモノ、如シ以前ハ是ニ陪從セルモ現今ハ大ニ減少セリトハ數年間從事セル實地家ノ談話ナリキ

一昨年ノ如キハ皮價一皮平均二十四弗ナリシモ以來益需用者増加スルノ勢ヒナレハ後來皮價ノ騰貴ヲ來スヘキハ自然ノ道理ナリ故ニ船牀ノ數ト其所得ヲ計算スルキハ實ニ幾億萬ノ巨金ハ我北海ニ沈底シツ、アリ然レモ今ニ於テ政府爲スナシハ遂ニ北海ノ富源ハ彼ノ碧眼兒ノ手裡ニ歸センノミ噫

明治二十八年一月

政府ノ方針

外國密獵船探討記事捧呈後數日ヲ經テ臘虎臘獸獵法案ハ政府案トシテ貴族院ニ提出セラレ特ニ榎本大臣ノ演說アリ全院一致ヲ以テ可決セリ後同院ヨリ衆議院ニ廻送スルヤ殆シト同一轍ヲ以テ可決シ同法案ハ明治二十八年三月六日ヲ以テ明治廿九年一月一日ヨリ施行スヘキ旨ヲ公布セラレタリキ

明治廿八年一月三十一日貴族院ニ於テ榎本農商務大臣カ演說セラレタル大意ハ左ノ如シ

政府カ臘虎臘獸獵法案ヲ提出セシ所以ハ獸類ノ保護及ヒ増殖ヲ謀リ富國強兵ノ一助ト爲スニ在リ諸君希クハ此案ヲ贊成シテ實施ノ運ニ至ラシメヨト

同年二月十四日衆議院ニ於テ演說セラレタル同大臣ノ主旨左ノ如シ

近年南海岸及ヒ千島等ニ於テ外國船ノ密獵ヲ爲スモノ非常ニ増加セルニモ拘ハラズ現行ノ法律ハ頗ル不完全ニシテ之レカ取締ヲ爲スノ能ハサルノミナラス我獵業者ニ不便ヲ與フルコト甚カラス故ニ本案ハ一方ニ於テ從來ノ制限ヲ解キ當業者ニ便利ヲ與ヘテ之ヲ保護シ又一方ニ於テハ充分外國密獵船ノ取締ヲ爲シ之レカ繁殖ヲ謀ラント欲スルニ在リ云々

同大臣ノ演說ヲ以テ果シテ政府ノ方針ナリトセハ國家ノ爲メ同業者ノ爲メ大ニ賀セサルヲ得ス政府既ニ外國密獵船ヲ防禦シ我國同業者ヲ保護セントスル意アルニ當テハ余カ實地ノ

經驗談及ヒ記事ノ如キ或ハ政府カ同法案ノ提出時期ヲ幾分カ速ナラシメタルヤモ知ルヘカ
ラス余ハ此好時機ヲ以テ同業ノ隆盛ヲ圖ラントシ數名ノ有志ト謀リ更ニ北門會ナルモノヲ
設立セントスルモ決シテ偶然ニアラサルナリ左ニ其規則ノ案ヲ掲ク

北門會設立ノ主旨

今ヤ我國ノ大勢ヲ達觀スルニ國ニ憲法アリ民法アリ其他郡縣制度ノ如キ殆ント人爲上ニ關
スル治政法度ノ大典悉ク具備シ一モ歐米各邦ニ對シ耻ツル所莫シ然レモ獨リ我國商權未ダ
充分發達セサルハ實ニ吾人ノ遺憾トスル所タリ
抑皇國ノ元氣ヲ保チ國家ノ富強ヲ圖ルハ商權ヲ擴張スルニ在リ商權發達ヲ期スルハ生産
的事業ヲ振興スルニ如カス然リ而シテ北海道ハ實ニ我國北門ノ要地タリ拓殖起業ノ好地タ
リ而シテ今猶無人ノ地タラシム國民タルモノ對岸ノ火災視スヘキ秋ニアラサルナリ
偶々北海道拓殖事業ニ着手スルモノナキニアラサルモ多クハ失敗シテ好結果ヲ奏セサル所
以ノモノハ是レ風土ノ如何ニアラスシテ同道拓殖ノ方法ヲ誤リタルニ歸因スルモノト云ハ
サルヲ得ス故ニ同道拓殖ノ良法ハ勉メテ最近の方法ニ因ラズンハ其成效素ヨリ望ムヘカラ
サルナリ
是ニ於テ同道拓殖ノ最近方法トシテ先ツ天產物中ノ獸類ヲ狩獵シ一ハ外國密獵船ノ我領海
内ニ侵入スルヲ防禦シ一ハ其收益ヲ以テ同道拓殖ニ於ケル永久ノ法策ヲ講シ以テ富國強兵

ノ道ヲ立テントスルニ在リ我北海道近海ニ於テ外國密獵船ノ爲メニ年々密獵セラレ、モノ
實ニ數百萬ノ高額ニ達スルナリ
斯ノ如ク外國人我領海内ニ侵入シ來リ巨万ノ利益ヲ壟斷セラレ、ハ全ク我國民ノ權利ヲ放
任シ義務ヲ盡サ、ルニ因ルト謂ハサルヲ得ス我國ニシテ數百萬ノ利益ハ決シテ小額ニアラ
サルナリ之ヲ得ルト失フト國家經濟ノ上ニ於テ重大ノ關係ヲ有スルヤ明カナリ
實ニ北海道ハ我國ノ一大財源トシテ國防上ノ要地トシテ一日モ忽カセニ爲スヘカラサルノ
地タリ故ニ吾儕微力ヲ願ミス此舉アル亦偶然ニアラサルナリ忠君愛國ノ志士仁人振テ此舉
ヲ翼贊セラレントシテ請フ

北門會概則案

- 第一條 本會ヲ北門會ト稱ス
- 第二條 本會ハ我國商權ノ發達ヲ圖ル爲メ北海道產殖ノ獸類ヲ狩獵シ得ル所ノ利益ヲ
以テ同道ノ拓殖事業ヲ經營スルモノトス
- 第三條 本會ハ第二條ノ目的ヲ贊同シタル實業家及有志者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ノ目的ヲ達スル爲メ必要ノ資金ハ組合員之ヲ釀出スルノ義務アル者トス
- 第五條 本會ノ主旨ヲ贊成シ北海道へ移住セントスル者ハ適宜ノ契約ヲ以テ土地及ヒ
必要ノ器具ヲ貸與シ耕作ノ業務ニ從事セシムルモノトス

第六條 本會ノ狩獵方法ハ獸類ノ繁殖ヲ圖リ永遠ニ繼續スルノ目的ヲ以テ從事スルモノトス

第七條 本會ヨリ生シタル純益金ハ本會ノ資本金ニ充ツルモノトス

第八條 本會ノ職員ハ總テ無給トシ純益ニ依リ獎勵金ヲ授與スルモノトス

第九條 本會ニ關スル必要ノ事項ハ總テ會議ノ決定ヲ得テ執行スルモノトス

第十條 會長ハ本則ニ違反セサル範圍内ニ於テ事務ヲ決行シ後組合一同ノ協賛ヲ得キモノトス

第十一條 本會ニ入會セントスルモノハ左ノ書式ニ依リ入會書ヲ呈出セシムルモノトス

入會書

自分義貴會ノ主旨ヲ賛成シ入會候也

族籍住所

何之誰印

年月日

會長宛

第十二條 本會ノ規則ハ會員五名以上ノ發議ニ依リ會議ニ附シ變更スルヲ得ベシ

獵業着手豫算

前記外國密獵船ニ關スル出入豫算ヲ以テ斯業ノ如何ニ利益ヲ得ラル、者ナルカハ知ルヘキモ茲ニ北門會ノ目的ヲ達スル第一着手ノ豫算及ヒ其出入豫算ノ必要ヲ感シ左ニ其概略ヲ掲

獵業經費豫算

一金一万四千六百五十圓

經費

此内譯

一金三千圓

獵船一艘

但帆前船七十噸積

一金五百圓

獵船要具一式

一金三百五十圓

端艇七艘

但附屬品共一艘五十圓

一金四百圓

獵銃二十挺

但單銃一挺十圓散彈銃一挺三十圓

此合計四千二百五十圓

船長歩合

一金二千圓

但捕獲頭數一頭ニ付二圓ノ歩合トシ捕獲總數ヲ千頭ト假定シ通算スルモノナリ然レモ皮價ノ高低ニヨリ増減アルモノトス以下之ニ準ス

一金一千圓

運轉手歩合

但一頭ニ付一圓ノ歩合トシ捕獲頭數ヲ千頭ト假定シテ通算ス

一金四千八百圓

銃手歩合

但一人ノ歩合一頭ニ付八十錢トシ千頭ニ對スル六人分ノ通算ナリ

水夫長歩合

一金二百五十圓

但一頭ニ付二十五錢トシ千頭ニ對スル通算ナリ

一金二千六百圓

水夫歩合

但一人ノ歩合一頭ニ付二十錢トシ千頭ニ對スル十二人分ノ通算ナリ

一金三百圓

賄人歩合

但一頭ニ付三十錢トシ千頭ニ對スル通算ナリ

此合計金八千七百五十圓

一金九百六十圓

食料

但人員廿四名一ヶ月百二十圓トシ八ヶ月分

一金貳百五十圓

彈丸及火藥

一金百五十圓

結晶鹽

一金百圓

石炭

一金貳百圓

雜費

此合計金千六百六十圓

一金四万八千圓

収入額

但一期間ノ捕獲數ヲ千頭ト假定シ一皮平均二十四弗ナルキハ二万四千弗ヲ得之レ明

治廿六年十二月米國桑港市場ノ實價ナリ依テ今五十二對スル百ノ割合ヲ以テ日本

金ニ換算セシモノナリ

出入差引

一金三万三千三百五十圓

純益

斯ノ如ク一期間ニ於ケル獵業ニ付テ資金ヲ要シ且ツ利益ヲ得ラル、ナリ特ニ新事業ナルヲ以テ船体器具ノ資金ヲ要スルモ翌年ヨリ船牀ニ要スル四千二百五十圓ハ純益ニ加フルヲ得ベシ然ルキハ三万七千六百圓ノ高額ニ達スヘキナリ

本會ノ目的ハ本業擴張ノ目的ナルヲ以テ年々獵船ヲ増加セントスルニ在リ一艘ノ収益既ニ然リ今數艘ヲ以テ斯業ニ從事セバ其收額ノ如何ハ敢テ辨明ヲ要セサルヘシ斯業ハ實ニ我國ノ一大財源ニシテ殊ニ大ニ國權ニ關スル者ナルモ讀者ニシテ若シ感覺ナキモノハ我國民ニアテスト云フモ敢テ誣言ニアラサルベシ

海獸獵業英米交渉始末

本文ハ明治二十六年余カ米國漫遊中米國ベリリング海中ニ於ケル海獸獵業歴史及ヒ英米兩國ニ對シ國際調停會議カ決定ヲ與ヘタル顛末ヲ譯出セシモノニシテ我國密獵船問題ニ對スル必要ノ好材料タルノミナラス又斯業ノ如何ニ國家經濟ノ上ニ及ホスコノ重大ナル

ヤチ知ラシメントスルコ在リ讀者夫レ之ヲ諒セヨ

夫レ海獸獵業ハ米亞間ニ於ケル一大問題ナリ其業ノ操縦一タヒ其當ヲ失セハ彼ノ無限ノ天
產物ハ方ニ其跡ヲ地球上ヨリ絶タントスルハ理數ノ見易キ所ナリ故ニ海獸獵業ノ取締ハ幾
多米國政治家ノ腦漿ヲ絞リタルカ知ルヘカラズ英米間ノ國際條約ノ如キハ實ニ現世紀ニ於
ケル社會問題ノ重且大ナルモノナリ然リ而シテ今ヤ漸ク英米條約ノ條項ハ兩國ノ國法トシ
テ制定セラレントスルコ際シタレバ海獸獵業ノ問題ハ再ヒ英米ノ國會議場ニ跳躍シテ一大
論戰ノ火花ヲ散ラサシムルノ期モ將ニ來ラントス天下ノ政事家タルモノ海獸獵業ノ過現來
ニ就テ研究セスシテ可ナランヤ

今ヤ眼ヲ轉シテ我北海ヲ看バ千島ノ島嶼点々基列スル所艦艇大舸ノ擅ニ横行スルヲ見ル而
シテ彼等ノ横行スルヲ見切齒憤慨スルモノ四千万ノ民族中果シテ幾人ソヤ日本天産ノ富源
ハ常ニ彼ノ艦艇大舸ノ爲メニ蹂躪セラレ一人ノ之レヲ咎ムルモノナク數十ノ艦隊空シク手
ヲ拱シテ彼ノ艦艇大舸ヲ傍觀シ居ルハ何ソヤ家ニ盜アリテ之ヲ捕フルヲ爲サス豈ニ其愚
昧無智ヲ笑ハサランヤ是ニ於テ我國ノ輿論漸ク眼ヲ北海ノ天空ニ注クニ至リ密獵船ノ質問
ハ帝國議會ノ議場ニ上リ又我政府力之ニ對スル方策如何唯隔靴ノ歎ハ悲憤ノ念ト相交ハリ
鬱勃トシテ北天ノ一方ヲ蓋フ是レ實ニ我國ニ於ケル密獵船問題ニ對スル輿論ノ傾向ナリ
余曾テ聞ク我米國駐在日本公使ハ大ニ英米魯諸國ノ間ニ周旋シ互ニ相連結シ以テ北部太平
洋ニ於ケル海獸獵業ノ保護ヲ圖ル所アラントスト事既ニ半年前ニ於ケル洋字新聞ノ報導ス

ル所ナリ余ハ敢テ此ノ一新聞ノ記事ヲ以テ輕々ニ事實ト信スルモノニアラス然レモ必スヤ
我國ガ是等諸大國ト共ニ大ニ爲ス所アラントスルカチ世人ヲ知ラシメタルヲ喜ブ者ナ
リ世既ニ之ヲ認ム我日本國民タルモノ豈大ニ奮勵セズシテ可ナランヤ去レバ我國輿論カ彼
ノ千島海獸保護ノ爲メニ激動シテ狂セントスルハ方ニ數年ヲ出テサルヘシ我千島海獸保護
ヲ講セント欲セハ宜シク豫メ英米諸國カ既ニ實行シタル海獸保護ノ先例ヲ講究セサルヘカ
ラス即チ彼ノ故ヲ温チテ新キヲ知ルノ方法ハ今後我國ニ於ケル海獸保護ノ策ヲ立ツルノ上
ニ於テ最モ必要ナラン故ニ余ハ彼ノペーリソング海ニ於ケル海獸獵業ニ就テ講究セントス然
レトモ史料乾燥固ヨリ讀者諸君ヲシテ満足セシムルヲ得スト雖トモ幸ニ余カ微意ヲ察シテ
以テ我國ノ海獸獵業問題ニ對スル材料ノ一助ニ供セラレントナ

アラスカノ地ハ從來魯國ノ所有ナリシナリ魯國ノ東洋占領策ハ遂ニ東西兩半球ノ境界タル
ペーリソング海峽ヲ越ヘテ北米大陸ニ其領土ヲ廣メタリシナリ然レトモ今ヲ去ルヲ廿七年ノ
往時ニ當リテ魯國ハ此廣大無邊ナルアラスカノ地トペーリソング海中數多ノ島嶼ヲ合セテ之
ヲ合衆國ニ賣渡シタルハ千八百六十七年三月三十日ナリキ而シテ米國合衆國ハ之ニ對シテ
無慮七百二十万弗ヲ魯國ニ拂ヒタリ

アラスカハ荒蕪ノ地ナリ加フルニ寒氣凜烈ニシテ僅カニニススキモ一人種ノ棲息シ居ルノミ
然ルニ米國カ斯クモ價金ヲ拂ヒ以テアラスカチ其領地ニ編入スルニ至リタルハ何ソヤ是唯
彼ノペーリソング海中ニ在ルセントポール其他ノ群島ハ天然ノ海獸獵場ト育場ヲ形成シテ無

靈藏ノ寶庫ヲレハナリ嗚呼此ノ天然ノ寶庫ハ實ニ米國ノ手ニ歸シタリ米國如何ニシテ此寶庫中ノ財ヲ収メタルカヲ見ント欲ス

千八百七十年ニ至リ米國政府ハ初メテ米國人ノ創設セルアラスカ商業會社ニ許可スルニプリヒロス群島ノ海獸獵業ヲ以テシタリ且ツ同會社ト條約ヲ結ビ二十年間獵業ヲ營ミ得ルノ特許ヲ與ヘタリ而シテ此米國政府ノ特許ニ對シテ全商業會社ハ其捕獲シタル海獸ノ毛皮一枚ニテ若干ノ特許料ヲ納ムルコト爲セリ此特許料ハ一定ノ價額ナク毎年米國大藏郷ヨリ其價格ヲ指定スルノ規定ナリ又同商業會社ハ此特許料ヲ拂ヒタル上別ニ毎年幾ヶ月間海獸獵地ノ土人ニ無料ニテ食物薪炭ヲ與ヘ且ツ土人ヲ訓戒スルノ責任ヲ負セタリ斯ク米國政府トアラスカ商業會社トノ間ニハ一種ノ規約アリテベリリング海中海獸ノ獵業ハ獨リアラスカ商業會社ノ獨專事業トシテ繼續スルコト凡十七年間ノ久シキニ及ヘリ而カモ其獨占事業ハ意外ニモ莫大ノ利益ヲ博シタレハ同會社ハ嚴重ニ米國政府ニ對スルノ義務ヲ盡クシ且ツアラスカ土人ニ對スル責任ハ米國政府カ契約シタル時ヨリモ猶一層ノ長時期ヲ費シテ之ヲ盡シタルコトサヘアリシナリ又以テ同會社カ此ノ天然ノ寶庫中ニ遺利ヲ拾ヒタルノ如何ニ夥多ナリシカヲ知スルニ足レリ

斯ク米國政府カアラスカ商業會社ニ海獸獵業ノ特許ヲ與ヘタルヨリ一種ノ風説ハ米國政府ニ達セリ即チ彼ノ小形ノ密獵船ガベリリング海中ニ闖入シ海獸ヲ密獵スルモノアリト是ニ於テ米國政府ハ特ニ一艘ノ密獵取締船ヲ派遣シ嚴重ニ之ヲ取締リタリ

斯ク一方ニハアラスカ商業會社ニ海獸獵業ノ特許ヲ與ヘ一方ニハ取締ヲ派遣シテ大ニ取締リテ嚴コセシヨリ十六年間ノ久シキ別ニ密獵船ニ關シテ紛擾ヲ生スルコトナカリシモ千八百八十六年ニ至リテ數艘ノ密獵船ハ英領加奈陀ウイントリア港ニ於テ嚴裝シ公然英國ノ國旗ヲ翻ソベリリング海中ニ侵入シ到ル處擅ニ海獸ヲ捕獲シタリ而シテ此密獵船ハ忽チ米國取締船ノ爲ニ擒ニセラレタリ茲ニ於テ始メテ英米間ノ一大問題ヲ惹キ起スニ至リタリシナリ千八百八十六年ニ於テ米國大藏郷ノ命ヲ受ケベリリング海中ヲ取締リタルハ彼ノカビテンアブベー氏ナリ同氏ハ取締船コルウイン號ヲ支配シテセントセヨ一ツ島ノ南東六十哩ノ距離ニ於テ米船一艘英船三艘ノ密獵船ヲ擒ニシタリ臙テ是等ノ密獵船ナルユ一チヤン群島ノ一ナルアラスカ港灣ニ引致シ同港ニ於テ密獵船ノ審判ヲ開始シタリ而シテ其結果トシテ密獵船乗込ノ水夫ハ同地ニ於テ赦免セラレタルモ密獵被告事件ハ合衆國本國ノ法庭ニ差廻ハサレ審理ノ末密獵者ハ米國合衆國改正法例千九百五十六條ニ抵觸シタルモノト判定セラレタリ同條ノ成文ニ曰ク

アラスカ土人ヲ除クノ外何人ト雖トモアラスカ水面内ニテ獸類ヲ捕獲スルヲ得ス
斯ク英國ノ國旗ヲ翻ヘシタル密獵船カ合衆國ノ法庭ヲ煩ハスニ至リ英國政府ナルモノ豈默過シテ止マンヤ英國政府ハ直ニ米國政府ニ向ケテ其人民及ヒ船舶ヲ引致シタルノ不當ヲ駁論シ彼ノ密獵船ハ國際公法ニ規定シタル海岸三哩以外ノ地ニ於テ獵業ヲ營ミタル者ナレハ即チ米國ノ範圍外ナリ故ニ米國政府カ擅ニ我國獵船ヲ引致シ其罪ヲ問フノ權利ナキ者ナリ

果シテ米國政府ニシテ其權利アリト証認セハ之レカ理由解釋ヲ與ヘヨ若シ其理由解釋ヲ與
 フル能ハズンハ速ニ其引致シタル英國ノ人民ト船舶ヲ還スベシト頗ル強硬主義ヲ以テ米國
 政府ニ逼レリ此ニ於テ密獵問題ハ英米兩國間ノ國際問題トナリ兩國國權ノ消長ハ實ニ此舉
 ニ依リテ決セラレントシ遂ニ米國政府ハ一步ヲ英國政府ニ讓リ英國密獵者ト船舶トヲ放免
 セリ是レ當時ノ米國大藏卿ハヤード氏軟弱ナルヨリ暗々裏ニ英國ノ強硬主義ニ遂巡シタ
 ルモノナリ此英米國際問題ノ終結如何ハ實ニペーリング海上ニ於ケル米國主權ノ興廢ニ關
 スルヲ覺ラサリシナリ果セル哉米國政府一度歩ヲ英國政府ニ讓リシヨリ米國ノ主權ハ海上
 三哩ニ縮マリ益々密獵船ノ横行濶歩スルヲ見ル所ナリ海上三哩的ノ主權論ハ近ク米國法官カ
 我帝國ノ頭上ニ加ヘタルノ耻辱ニアラスヤ般鑑遠カラズ我日本ノ政治家タル者豈大ニ將來
 ヲ戒メサルヘケンヤ

米國政府既ニ一步ヲ讓ル之レ實ニ米國政府ノ一大失策也彼ハ自ラペーリング海中ニ於ケル
 主權ノ範圍ヲ縮少セリ彼カ嚴肅ナル主權ノ應用ヲ施スニ當リテ猶ペーリング海中ノ寶庫
 ハ密獵船ノ闖入スルアリ況ンヤ自ラ其權利ヲ縮メテ其大部分ヲ放棄シタルニ於テヤ故ニ
 密獵船ノ出沒スルモノ以前ニ倍シテ其船體ノ巨大ナル亦以前ノ比ニアラス公然英國ノ國旗
 ヲ掲テペーリング海中ヲ縱航シテ殆ト憚ル處ナキニ至レリ而シテ當時米國派遣密獵取締
 船ヲツシ號ノ船長シバード氏ハ號令ノ下ニ數多ノ密獵者ヲ擒ニスルモ英國政府ノ慣用的請
 求ニヨリ其擒ニシタル密獵者ヲ放免セリ嗚呼一國ノ主權一タヒ侵害セラレンカ之ヲ回復ス

レハ頗ル至難ノ事業タリ米國政府カ一大失策ノ結果ニ思ヒ及ブモノ深ク留意三省シテ可ナ

元來密獵船ノ同海中ニ闖入セサル時ハ其獵場頗ル廣大ナリ然レドモ米國々務卿ペーヤ
 ード氏一度米國ノ主權ヲ扞ケテ英國ニ讓歩スルヤ密獵船ハ米國主權ノ嚴肅ヲ恐レズシテ擅ニ
 密獵ヲ逞フシ遂ニ海獸ノ生育ヲ妨クルニ至リ其獵地ハ僅少ノ地ニ縮マルニ至レリ十年前
 ノ獵地ト今日ノ獵地ヲ比較スルモ殆ト前者ノ三分ノ一ニ減タサルナリ是レ實ニ米國
 カ一大失策ヨリ受ケタル損害ナリト云ハサルヲ得ス吁一朝ノ失策斯ノ如ク夥多ナル損害ヲ
 讓セリ其損害ハ猶之ヲ忍ブヘシ獨リ其侵害セラレタル米國主權ヲ如何セン

去レハ當時米國々務卿ペーヤード氏ハ其一旦屈シタル膝ハ再ヒ英國ニ對シテ之ヲ伸ハスナ
 得サルヨリ萬策玆ニ盡キ遂ニ他ノ交際國ノ助力ヲ借ルノコトシ千八百八十七年國務卿ペー
 ヤード氏ハ歐洲各國ニ駐在セル米國公使ニ命シテ英獨佛ノルウエー及スウェデンノ各政府
 ト交渉シ各國政府ハ其人民カペーリング海中ニ於テ海獸獵業ヲ營ムヲ制止スルノ契約ヲ米
 國ニ向ケテ結ハシメント試ミタリ而シテ此ノ交渉ノ結果ハ意外ニモ平常米國ノ權利ヲ蹂躪
 シタル英國政府カ首トシテ此ノ交渉ニ一致シタレハ米國ト歐洲各國トノ間ニハ將サニ首尾
 能ク密獵制止ノ契約成立セントシタリ此ノ契約ニシテ成立センカ米國ノ損害ハ左迄夥多ナ
 ラサリシナラン然レトモ回瀾ヲ既倒ニ起シ大厦ヲ一木ニ支ヘントスルハ到底尋常人ノ爲シ
 能フ所ニアラズ況ンヤ彼ノ一大失策ヲ演シタル國務卿ペーヤード氏其人ニシテ此回天ノ偉業

ヲ試ミントスルニ於テチヤ果然一隊ノ伏兵ハ英領加奈陀ヨリ起レリ此ニ於テ彼ノ交渉談判ハ中途ニシテ其進路ヲ杜絶セラレタリ蓋シ英領加奈陀ハ密獵船ノ巢窟ニシテ一朝密獵船ニシテ制禁セラレンカ英領加奈陀ハ實ニ一大財源ヲ失フヲ以テナリ

斯ク米國政府ガ一大失策ヲ演シタルハ實ニ大統領クリーブラント氏ノ前世紀ニ在リ而シテ此一大失策ヲ挽回セント試ミタルモ又クリーブラント氏ノ時代ナリ然レ一蹶又振ハズ千八百八十八年クリーブラント氏ノ内閣ハ其主權挽回策ヲ有邪無邪ノ間ニ殘シテ其運命ヲ終レリ嗚呼米國ハ終ニ其主權ヲ蹂躪セラレントセリ然レ天幸ニ未タ米國ヲ捨テス絶代ノ偉人ナシテ遂ニ此時ニ起ラシメタリ其偉人トハ誰ゾヤ大統領ハリソン氏ノ内閣ニ立テ國務卿ノ大任ヲ帶ビタル故ブレネーン氏ナリキ

米國主權ノ歴史ヨリ言ヘバ實ニ危急存亡ノ秋ニ當リテ大統領ハリソン氏ノ内閣ハ組織セラレタリ而シテ此一獲千鈞ノ機ニ應スル人ハ絶代ノ偉人ナル故ブレネーン氏ヲ推シ去レハハリソン内閣ノ政畧ハ極メテ強硬ノ方針ヲ執リテ着々主權ノ回復ヲ勉メタリ斯ク強硬政畧ハ密獵船取締上ニ實行セラレタレバ千八百八十九年ノ夏期ニ於テ米國取締船カ數艘ヲ加奈陀密獵船ヲ捕拿スルノ結果ヲ呈セリ此ニ於テ英國政府ハ華盛頓府駐在ノ英國公使ニ命シテ米國政府ニ逼ラシメ頗ル嚴重ナル談判ノ鋒先ヲ向ケタリ其談判ノ論據タルヤ既ニ前米國々務卿ベイヤード氏ハベリンゴ海峽問題落着ニ至ル迄ハ一切密獵船ヲ捕拿セサル旨ヲ約シタリ故ニ米國政府ハ須ラシ其捕拿シタル密獵船ヲ放還スヘシト云フニ在リ米國政府ハ此

ノ要求談判ヲ受ケタルヨリ前國務卿ベイヤード氏カ果シテ斯ル約束ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シタリ然レ其結果ハ一モ英國公使カ論據トスルカ如キ約束ノ成立シ居ラサルノミナラズ既ニ前國務卿ベイヤード氏カ千八百八十七年八月十三日付ヲ以テ英國公使ウエスト氏ニ宛テタル書翰ハ明ニ前國務卿ハ斯カル約束ヲ爲サザリシ趣ヲ記載シアリテ英國政府カ要求談判ノ口實ハ單ニ構造ノ論據タル一事實ヲ益確メ得ルニ至レリ故ニ此要求談判ハ其曲英國政府ニ在リト云ハサルカラズ然レ英國政府ハ猶頑然トシテ其要求ヲ主張シテ止マズ英米兩國ノ談判ハ遂ニ終結ヲ見ルヘカラサルニ至リシナリ當時其談判ハ衝ニ當リタル米國々務卿ブレネーン氏ハ千八百八十九年八月廿三日付ヲ以テ英國公使ニ宛テ一書ヲ送レリ其書中ニ謂ヘリ密獵船ヲ捕拿シタルハ事實ナリ然レ其捕拿シタル所以ノモノハ米國大統領カベリンゴ海問題ノ終結ヲ速カナラシメントスルノ熱心ト希望トニ出テタルナリト同問題ハ夙ニ英國政府ノ誤解スル所ナリ蓋シ此誤解ヲ一掃シテ以テ同問題ノ終結ヲ急クハ目下ノ要務ナリシ

初メ英國政府カ當時ノ華盛頓府駐在公使ボンスホート氏ヲシテ米國政府ニ密獵船放還要求ノ談判ヲ試ムルヤ米國々務卿ブレネーン氏ハ之ニ答ヘテ曰ク密獵船カ擡ゴベリンゴ海中ヲ横行スルカ爲メニ同海中ニ在ル米國海獸獵船ハ常ニ此ノ密獵船ヲ追捕スルノ勞ヲ取ラサル可ラズ是レ密獵船ナルモノハ大ニ米國ノ海獸獵業ニ妨害ヲ與フルモノナリト一喝シ去リ且ツベリンゴ海全面ハ米國主權ハ支配ニ屬スルモノナル理由ヲ以テ之レニ應ゼリ嗚呼絶

代ノ偉人ハ漸ク其鉄腕ヲ振ヘリ彼レ既ニ意氣英國ヲ吞ミテ一喝ベリリング海ヲ漲ラヌルノ
慨アリ又何等ノ快事ヅヤ其紛擾乱麻ニ似タルベリリング海問題モ此偉人カ鉄腕ノ快刀ニ一
断シ去ラレタルモ亦宜ナル哉

故ブレエーン氏ノ鉄腕一タヒ下テ英國公使ボンスホード氏ハ其氣ヲ奪ハレタリ否公使其人
ニ非スシテ英國政府其者ハ實ニ氣ヲ奪ハレタルナリ其氣ヲ奪ハレタル英國政府ハ遂ニ千八
百九十年ニ至リテ故偉人ニ歩ヲ譲リテ故ブレエーン氏ノ劃策ニ服セサルベカラサルノ止ム
ヲ得サルニ至レリ其故偉人ノ劃策トハ何ソヤ

故ブレエーン氏ノ強硬ナル鉄腕ニハ英國政府ノ剛腹モ一頓挫ヲ來セリ英國政府モ遂ニ其歩
ヲ譲リテ國際調停會議ヲ開キ直ニ調停委員ヲ撰擧シテ之ニ當ラシムル旨ヲ以テ米國政府ヨ
回答シ且ツ左ノ三條件ヲ定ムルヲ提出セリ第一、海獸カ獵地ノ島嶼ニ來リ且ツ去ルノ時
期ニ於テノミベリリング海峡海獸密獵ヲ禁スルヲ第二、總テノ船舶ヲシテ海獸獵地島嶼ノ
十哩以内ニ侵入セシメサルヲ

英國政府ノ提出意見ハ既ニ一着ヲ輸シタルナリ去レハ當時國務卿故ブレエーン氏ハ斷然之
ヲ退ケテ曰ク此ノ提出意見ハ猶海獸保護ノ点ニ於テ不完全ナリ即チ毎年七八九ノ三月間ハ
ベリリング海中島嶼ノ近海ニ於テ最モ多ク海獸ノ群集スル時期ニシテ殊ニ牝獸ハ其幼獸ノ
爲メニ食ヲ求メント爲シ近海ニ樂ムモノナレハ彼ノ第一項ニ示シタル島嶼十哩以外ト區劃
ヲ定ムルハ不當不理ノ甚シキモノナリ如何トナレバ總テ育兒ノ海獸ハ其育成期ニ於テハ時

アリテ島嶼ヲ去ル一十哩以外ノ海上ニモ尙ホ群集スルヲアリテ決シテ十哩ノ範圍ト限ラサ
ルナリト整然タル論理ハ昂然タル意氣ト相合シテ見事米國政府ノ回答トナリテ現レ來レリ
去レハ英國政府ノ意見ハ一叱咤ノ下ニ退ケラレテ故ブレエーン氏ノ強硬ナル意見ハ後チ遂
ニ英國政府ヲ壓服シテ當時ノ英國主相サルスベリー公チシテ故ブレエーン氏ノ意見ヲ入レシムルヲ
トナレリ

然レモサルスベリー公ハ千八百九十年五月廿二日付チ以テ米國駐在英國公使ニ若シ萬國公
法ノ禁制スル場合ノ外海峡島嶼ノ海權區劃外ハ密獵勝手タルベシ且ツ海獸ハ天然ノ產物ニ
シテ未ダ初ヨリ所有者ナキ者ナリ唯海獸捕獲後ニ至テ初メテ海獸所有者ナル者チ生ズ故ニ
誰人モ海獸ヲ捕獲セサル限リハ其天産ノ海獸ニ就テ所有權ヲ主張スル能ハサルナリト一種
無類ナル海獸所有權論ヲ以テ米國政府ニ應戰セシメタリ而シテ此談判ノ久ニ彌ル間ニ千八百
九十年ノ海獸獵業ノ時期ハ再ヒ近キタリ密獵船ハ續々船ヲ艦裝ノベリリング海中ニ乗込ム
ノ準備ヲ爲スノ期ニ達セリ此ニ於テ米國政府ハ大ニ憂慮セリ斯ノ如クシテ英國政府ノ緩慢
ニ一任セシカ國際調停會議組織ニハ一步ヲ進メズシテ徒ニ密獵船ノ跋扈ヲ見ルハ何人モ疑
ハサル所ト同年五月ニ至リテ嚴密ナル命令ハ米國政府ヨリ密獵船取締船ニ向テ發セラレ
タリ即チ其命令ハ大ニ米國ノ主權ヲ勵行シテ同海中ニ於ケル密獵船ヲ悉ク捕拿セントスル
ニ在リ而シテ米國政府カ此嚴密ナル命令ヲ發スルヤ英國政府ハ華盛頓府駐在英國公使ボ
ンズホード氏チシテ公然米國政府ニ談シテ曰ク英國政府ハ此密獵船捕獲ノ命令ヲ以テ萬國公法

ノ法理ニ違背セルモノトナス故ニ此命令ノ結果ハ生シタル損害ハ米國政府ニ於テ充分ノ責任ヲ負フヘシト銳ク米政府ニ一撃ヲ加ヘタリ當時千八百九十年ノ頃ハ英米兩國ノ輿論ハ未ダ著ク密獵問題ノ爲メニ聳動セラレズ實際密獵ノ弊害ハ彼ノ如ク甚シキ者ナルヲ知ラサル時代ナリ故ニ米國大統領ハリソン氏ハ此英國政府ノ宣言ニ對シテ其一旦發シタル命令ヲ撤回セリ而シテ更ニ之ニ代ルニ單ニ密獵船退去ノ命令ヲ以テセリ其命令ノ要領即チ米國取締船ヲシテ米國海權區劃内ニ於ケル密獵船ニ對シ或ハ口頭或ハ大統領ノ命令書ヲ示シテ之ニ退去ヲ命セシムルニ至レリ

米國政府カ密獵船退去ノ命令ヲ發シタル後ニ至リテ米國々務卿ブレエーン氏ハ英國政府ト

調停會議開設ハ英國密獵船ヲシテベールリング海中ニ入込ヲ禁セシメント試ミタリ而シテ英國政府ハ之レニ應ンテ千八百九十年七月廿七日即米國政府カ密獵船退去命令ヲ發シタルヨリ一ヶ月ヲ經タル時ニ當リテ英國公使ヲシテ左ノ條件ヲ以テ米國政府ニ答ヘシメタリ

第一 英米兩國政府ハベールリング海密獵船問題ヲ以テ國際調停會議ニ提出スヘキコト

第二 調停會議開設中ハ密獵船ニ對シテ干涉ヲ行ハサルコト

第三 依リテ密獵者カ受ケタル損害ハ總テ米國政府ニ於テ償フヘキコト

英國政府ハ斯クモ我田引水ノ條件ヲ提出シタリ米國政府タル者豈之レヲ默過センヤ况ンヤ絶代ノ偉人タリ第一流ノ外交家タルブレエーン氏其人アルニ於テチヤブレエーン氏ハ直

ニ同年七月二日附キ以テ之レヲ答ヒ其ノ條件ヲ拒絕シテ曰ク米國大統領ハ英國首相サレズベリ公カ決シテ其ノ談判意見ニ就テ言責ヲ重ニスルモノニアラサルヲ覺レリ如何トナレバ英國首相ハ其返答ヲ延引シテ到底海獸獵業期前ニ談判ヲ進行セシムルヲ能ハサルニ至ラシメタレハナリト一喝シテ其條件ヲ退ケタリ

斯クテ千八百九十年ノ夏期即海獸獵期ハ無事ニ經過セタリ然レモ同年秋期ニ至リテ一大怪報ハ屢ベールリング海中ノ海獸獵業地ヨリ米國政府ニ達セリ其ノ一大怪報トハ何ソヤ即密獵濫行ノ結果トシテ海獸ノ著シク減少シタリトノ報知是ナリ此ノ一大怪報ハ其度ヲ重テ米國政府ハ益其覺悟ヲ高メ來リテ一日モ速カニベールリング海問題ヲ決セントセリ然レモ英國政府ノ意嚮遷延決セサル所アリ漸ク千八百九十一年六月十五日ニ至リテ英米兩國政府ノ代表者ハ華盛頓府ニ於テ初メテ條約ノ調印ヲナセリ其條件ノ要ハ即國際調停會議ヲ開設スルコト付キ同條約調印ノ日ヨリ翌九十二年五月一日迄兩國相共ニ密獵船ノベールリング海峽ニ闖入スルヲ禁セシメ且ツ兩國ハ共ニアラスカノ地ニ特派委員ヲ遣ハシ密獵證據物ヲ集メ海獸ノ生育ヲ觀察シ以テ國際調停會議開設ノ材料ヲ備ヘシメントスルニ在リ而シテ此條約ニ依リテ兩國カ特派委員ヲ撰定セリ即チ英國ハバチンパウエル及ドクトル、ドリンソンノ兩氏米國ハテハアプロフェスサー、ソンドルホール及ドクトル、メリヤムノ兩氏トセリ因テ一同相共ニベールリング海ニ到リテ其任ニ當レリ而シテ同年秋氣ニ至リ是等特派委員ハ華盛頓府ニ歸レリ而シテ其委員會ハ實ニ同年十月華盛頓府ニ於テ開會セラレタリ

海獸密獵濫行ノ結果ハ遂ニペーリング海島ニ於ケル海獸ノ生育ヲ妨ケテ著シク其數ヲ減シ
 タリ而シテ此怪報一タヒ米國政府ノ睡眠ヲ驚カスヤ米國政府ハ俄ニ奮厲一番シテ彼ノ英米
 代表員ノ委員會ヲ開ニ至リシナリ去レバ余ハ此ニ密獵濫行ノ實況ヲ舉ケテ以テ密獵ノ如何
 ニ海獸生育上ニ大影響ヲ及ホスヤ又米國政府カ奮勵一番シタルノ無理ナラサルヲ示サシ
 トス

夫レ海獸ノ年齒及ヒ牝牡ヲ區別セシメテ唯捕獲ヲ是レ勉メ眼中貪利暴益ノ外一物ナキ密獵
 船ノ橫行ハ現ニペーリング海島ノ海獸ヲ減少シタリ若シ此儘ニシテ放任シ去ランカペーリ
 ング海中一頭ノ海獸タニ留メサルニ至ランノミ世人若シ之ヲ疑ハ例証現ニ南半球ニアリ
 則チ南半球ニ於ケル海獸密獵業ノ歴史ヲ緝キ來テハ海獸ト密獵ノ關係ハ一目瞭然タリ彼
 密獵船ノ橫行ハ嘗テ一度南半球ノ海獸ヲ驅逐シタリ南半球ノ無人島素ヨリ法律制裁ノ以テ
 密獵船ヲ禁制スル者ナク天興ノ遺利空シク密獵船ノ拾フカ儘ニ任セラレ遂ニ南半球ニ於ケ
 ル海獸ヲ蕩盡シ去ルニ至レリ請フ千八百八十七年ニ於ケル世界海獸獵業ノ報告書ヲ一見セ
 ヲ同報告書ハ合衆國獵業委員ノ一人クラース氏ノ手ニ成ルモノナリ同報告書中左ノ一節ハ
 實ニ密獵濫行ノ結果ヲ示シタルモノナリ
 南極ニ近キ南セツトランド群島マサラフ島南ヲナルシヤ島其他ノ島嶼ニ於テハ元來海獸億
 萬ヲ以テ數フル計リニ棲息シアリシモ第十九世紀ノ初メニ當リテ密獵船ハ遠ク此南極ノ島
 嶼ヲ襲ヒ而シテ密獵ノ濫行ヲ擅ニシテ遂ニ海獸ノ種族ヲ盡クセリ即チ少クドモ海獸ノ減小

ハ遂ニ密獵船ノ利益ヲ見サルマテニ至ラシメタリ是レ年齒牝牡ノ厭ヒナク捕殺シタル結果
 ハ僅カ數年ヲ出テスシテ幾億ノ海獸ヲ盡クセリ殊トシマサラフ島及ホルクランド群島ノ如
 キハ全ク海獸ノ種族ヲ殺盡シテ再ヒ生育ノ見込ナキニ至ラシメタリシナリ最初密獵船カ南
 セツトランド群島ヲ襲ヒタリシハ實ニ千八百十九年ノ昔時ニ在リ當時二艘ノ密獵船ハ思フ
 儘ノ捕獲ヲ得タリ此ノ評判一タヒ世ニ傳フルヤ翌二十年ニハ密獵船ノ數ハ著シク増加シテ
 三十艘ニ上リ何レモ濫フテ同群島ヲ押寄セ僅カ數週間ニシテ其捕獲スル處ノ海獸二十五萬
 頭ヲ超過セリ斯ク密獵濫行僅カ一年ニシテ同群島ノ海獸ハ殆ント盡キントスルニ至レリ葦
 シ獸兒ノ離胎後僅カニ三四日ヲ經タルモノ皆其母獸ヲ失フテ自滅セリ此獸兒ノ自滅セシモ
 ノハ當年實ニ十一萬頭以上ニ達シタルト云フ

以上ノ現況ハ唯ニ南セツトランド群島ノミナラス南極諸島ノ現況皆同一轍ナリシナリ去レ
 ハ此覆轍ハ實ニペーリング海中ニ演セラレタルナリ此時ニ當リテ米國政府カ奮勵一番シテ
 密獵禁止ノ目的ニ向テ國際調停會議ノ開會ヲ促カシ急進的ニ會議ノ端緒ヲ開クニ至ラシメ
 タルモノ實ニ故ブレエーン氏ノ在レハナリ米國人タルモノ同氏ノ偉績ニ對シテ深ク感謝セ
 サルヘカラサルナリ余ハ之レヨリ更ニ進テ彼ノ南極群島ニ於ケル覆轍カ如何ニ北洋ノペー
 リング海中ニ於テ再演セラレツ、アリシカチ説カン
 斯カル覆轍カペーリング海中ニ活演セラレタル實跡ヲ述フルニ當リ余ハ敢テ獨斷ノ測定ヲ
 下サス寧ロ米國有力者ノ演說ヲ借り來リテ之ヲ証言スルノ勝レルヲ知ル其有力者トハ誰ソ

ヤ即チ華盛頓府ニ在ル米國地理協會ニ於ケルスタンレー、ブラウン氏ナリ同氏ハ今チ去ル
二年前同協會ニ於テ詳カニ海獸獵業ニ就テ演説ヲ試ミタリ

千八百七十九年ニ於ケル英領加奈陀ノ獵業報告ハ漸ク世人チシテ海獸獵業ノ著大ナル
ヲ覺ラシムルニ至レリ何トナレハ同年加奈陀密獵船ハ實ニ二千五百頭ノ海獸ヲ捕
獲シタレハナリ其後千八百八十六年加奈陀獵業報告ノ記ス處ニテハ毎年平均一万三千
頭ノ海獸ヲ捕獲シ居タリシモ同年ニ至リテ密獵船ノ捕獲ハ俄カニ増加シテ同年龍動ニ
積ミ送リタル海獸毛皮ハ實ニ無慮三万八千九百七枚ニ上レリ之ヨリ以後三年間ノ捕獲
頭數ハ非常ニ夥シク千八百八十七年ニハ三万三千八百頭同八十八年ニハ二万七千九百
八十三頭同八十九年ニハ三万三千九百七頭ナリシナリ千八百九十年ニハ加奈陀密獵船
ノ數ハ四十二艘ノ多キニ及ヒ其捕獲總數ハ四万四千七百五十一頭ノ多キニ達セリ翌九
十一年ニ及ンテ加奈陀密獵船ハ益其數ヲ増シテ四十九艘ニ及ヒ其捕獲總數ハ四万九千
七百五十二頭ニ上レリ此ノ九十二年ニ於ケル捕獲總數中二万一千百三十七頭ハ北部太
平洋内ニ於テ捕獲シ殘リ二万八千六百五頭ハペーリング海中ニ闖入シテ密獵嚴禁ノ法
網ヲ潜リテ密獵シタリ斯ノ密獵船ニ止マラズ米國人ノ手ニ屬スル密獵船又其厥扈一方
ナラズ現ニ去ル九十一年ニ於ケル英國獸皮貿易ニ於テ同年獸皮ノ賣買セラレタルモノ
總テ六万二千五百枚ニ上レリ而シテ此内幾分ハ米國ヨリ英國貿易市場ニ積出サレタルモノ
ノナリ去レハ同年ニ於ケル米國北洋海獸捕獲數ハ無慮十萬頭以上ニ達シ其過半ノ海獸

ハ疑モナク母獸ノ赤兒ヲ哺乳シツ、アルモノナリ而シテ母獸ニ捕獲セラレシカ獸兒ハ
立ロニ自滅スル者タルヲ記憶セサルベカラズ去レハ彼是相合スレハ其海獸ヲ失フタル
數ハ幾許ナルヤヲ知ルベカラス

余ハ(スタンレー、ブラウン氏自身)四ヶ月間自ラペーリング海中アリビロフ群島ニ在
リテ十分ノ實地調査ヲ遂ケテ以テ海獸衰滅如何ノ問題ヲ研究シタリ其衰滅ノ現狀ハ僅カ
ニ二年間ニ於テ著シク差異ヲ生シ來リタリ即チ海獸獵地ノ二年前ニ於ケルモノト今日
(千八百九十二年ヲ指ス)ニ於ケルモノヲ比較シ來ラハ何人モ如何ニ大ニ密獵船カ海獸
ノ衰滅ヲ起因シタルカヲ知ルニ苦マサルベシ

此ノ一場ノ演説ハ能ク讀者ニペーリング海中ニ於ケル海獸獵業ノ歴史ヲ概説シテ餘リアリ
ペーリング海島ニ於ケル海獸獵地カ密獵船橫行ノ爲ニ著シク其區域ヲ縮少シタルハ余既ニ
詳カニ之ヲ説ケリ而シテ此密獵船ノ橫行ハ實ニ千八百八十六年以後ニアルハ前既ニ之ヲ述ヘ
タリ故ニ密獵船橫行ノ紀元ハ實ニ數年前ニアリ故ニ此以前ニ於ケルペーリング海島ノ海獸
獵業ニ就テ今茲ニ少ク叙セン

初メアラスカノ地カ魯國ノ領屬ニ在リテ米國ニ讓ラザルヤペーリング海島ニ於ケル海獸ノ
保護ハ實ニ前後九十年ノ久シキ法律ヲ以テ是ヲ規定實行シ來リタルナリ其ノ法律ニ依レハ
凡ソ同海島ニ於テ捕獲シ得ベキ海獸ハバチエロルト呼ブ若牡獸ニ捕獲ノ時期ハ六月ヨリ
十月マテトス尤モ同時期中八月九月ノ兩月間ハ海獸ノ皮質稍々粗惡ニ傾クノ憂ヒアレドモ

一般ニ六月ヨリ十月迄ヲ以テ海獸ノ皮質純良ナルノ時期ナリトス故ニ法律上又此時期ヲ以テ海獸捕獲ヲ許可シタルナリ而シテ其捕獲ヲ許シタル海獸モ唯々若牡獸ニ止メテ牝獸ヲ殺スヲ禁シタルハ蓋シ十五頭ノ若牡獸中十四頭ヲ捕獲スルモ決シテ全体ニ於ケル海獸ノ種族ヲ滅スルノ恐ナケレハナリ又一頭ノ牡獸ハ能ク二十頭若クハ三十頭ノ牝獸ニ交偶シテ十分海獸ノ繁殖ヲ計ルニ足レハナリ故ニ魯國政府ヨリ引キ續キテ米國政府カ法律ヲ以テ海獸保護ヲ勉メタル結果ハベリリング海島海獸ノ數ハ一時大ニ増加シテ千八百八十五年ノ如キハ實ニ海獸ノ全盛ヲ極メタリト云フヘシ

當時海獸ノ價額ハ無慮三千万弗ノ總額ニ上リテベリリング海島ハ米國輸入ノ一大財源トナレリ當時米國政府ハアラスカ商業會社ニ特約シテ法律ノ規定ニ從テ海獸ノ獵業ヲ營マシメ其收入ヨリ海獸一頭ニ付十弗ノ特許料ヲ收メシメシガ其特許料ハ一年間一百万弗ノ多額ニ達セリ而シテ當年米國ニ輸入セシ海獸毛皮ハ實ニ夥シキモノニテ其輸入關稅ハ無慮三十七万五千弗ニ上レリ故ニアラスカ商業會社ノ利益ハ實ニ恐ロシキ斗リコト之レニヨリテ利潤ヲ被ムルモノハ歐米各國ノ製皮師ヨリ下ハベリリング海島ノ土人ニ及ヒシナリ

翌二千八百八十六年ハ實ニ密獵船橫行ノ紀元トモ呼ハル、時機ナレバ之ヨリ密獵船ハ漸クベリリング海中ニ闖入シ共ニ密獵ノ數モ次第ニ増加シテ既ニ述ベタル如ク同九十二年ニハ四十九艘ノ密獵船アリ翌九十三年ニハ著シク其數ヲ増シテ六十七艘ノ密獵船ヲ見ルニ至レリ而シテ此密獵船橫行ノ結果ハ俄カニ海獸ノ種族ヲ減少シテ米國ノ法律上捕獲シ得ベキ海獸

ノ若牡獸ニ屬セル者ハ千八百八十六年ノ往時ニハ實ニ十萬頭ノ多キヲ見シカ其後減シテ六萬頭トナリ更ニ減シテ千八百九十年ニハ僅カニ二萬一千頭トナリ斯ク俄カニ海獸ノ減少セシ所以ノモノハ職トシテ密獵船カ母獸ヲ捕獲スルニ起因セシムルハアラスカ母獸捕獲セラレ獸兒自滅スルノ事實ハ余カ屢述ヘタル所ナリ

夫レ獸兒ハ夏期ニ産レテ母獸ニ乳養セラレ二三日毎ニハ一タヒ乳ヲ求ム其乳養ノ期四ヶ月ニシテ漸ク遊泳ニ慣レ遠ク出テ、食ヲ求ムルニ至ル凡テ海獸ガベリリング海プリビロ群島ニ棲息スルハ毎年凡ソ六ヶ月間ニシテ冬期ニ入ルニ及ンテ海獸相率ヒテ太平洋中ニ泳キ出テ南東ノ方向ヲ取リテ除ロニ進行シ加州北方ノ太平洋海岸ニ沿フテ其進路ヲ轉シ五月五日頃ニ至リ游泳中ニ母獸ハ懷胎シ後レテ七月半頃迄ニベリリング海ニ入り産兒場ニ入ル而シテ産兒場ト産兒生育地及ヒ海獸獵地トハ自ラ天然ノ區劃ヲ爲シテ相犯カス獸兒六七才ニ至レハ自ラ進ンテ海獸獵地ニ入りテ其位地ヲ占領スルモノナリ而シテ此海獸ハ常ニ島嶼上ニ群集スト雖モ時アリテハ一二日間其食ヲ求メントテ島嶼ヲ去ル五十哩乃至百哩ノ海中ニ游泳ヲ試ムルモノナリ斯ク海獸ノ生活ハ一定井然タルモノタリ故ニ之ヲ人爲ニ任セ制束セズ彼ノ密獵船ノ爲スカ儘ニ放任シ遂ニベリリング海島ニ海獸ノ減少ヲ呈シタルモ決シテ無理ナラサルナリ

彼ノ米國政府カ深ク前途ヲ憂ヒテ急進激行以テ國際調停會議ノ端緒ヲ開キタルハ實ニ米國政府ノ一大斷行ト謂ハサルベカラヌ余ハ之レヨリ國際調停會議ニ説キ入ラントス

今本問題ニ就キ及ハントスルニ豫メ記憶ヲ要スヘキハ余カ先ニ述ヘタル英米兩國カ特派委員ヲ撰定シタルト是ナリ其特派員ハ英米兩國各二名ノ委員ヲ定メ之レヲシテベリング海島ノ實地ニ派遣セシメテ密獵ニ關スル實地ノ調査ヲ爲サシメ以テ其調査ヲ終了シ華盛頓府ニ歸來シ米國々務卿及ヒ英國公使ノ周旋ノ下ニ委員會ヲ開設シタルハ實ニ千八百九十二年二月ナリシ

英米兩國ノ委員會ハ國際調停會議開設ニ關シテ議論ニ議論ヲ重テ其議定シタル處ヲ以テ遂ニ國際調停會議開設ニ對スル英米國際條約ヲ生ミ出セリ其條約ハ繁ク避ケ之レヲ細記セスト雖其條項ノ概略ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 英米兩國政府ハベリング海問題ヲ終結セシメン爲メ國際調停會議ヲ開設シ

左ノ各國ヨリ委員七名ヲ撰出スル事ヲ規定シタリ

英國ヨリ二名米國ヨリ二名佛一名以多利一名スウェデン、ノールウェー、王國ヨリ一名トリキ

第二 三四五ノ數條ハ國際調停會議ノ順序時期及場所ヲ指定シタリ

第六 國際調停會議ヲ要求シタル米國ノ權利問題ニ關セリ

第七 海獸保護ノ方法ニ關セリ

第八 英米兩國間ノ損害要償請求ノ權利及請求談判開始ノ問題ニ關セリ

第九 英米兩國委員ノ實地調査報告ヲ國際調停會議ニ於テ採用スルコトヲ規定セリ

第十 ヨリ十三マテハ國際調停會議費支辨ニ關スル事ヲ規定セリ

第十四 英米兩國ハ國際調停會議ノ結果ニ満足シテベリング海問題ヲ終結セシムベキコトヲ誓言セリ

第十五 此條約ニ對シテ英米兩國ノ調印ヲ規定セリ

斯クシテ英米兩國ハ國際調停會議ヲ開設スル事ニ同意シテ關係諸國ニ通知シ國際調停會議員ノ撰出ヲ促カシタリ而シテ此ノ通知ニ應ジ撰出セラレテ會議ニ列席シタル議員ハ左ノ如シ

米國ヨリ高等法院判事ハラン氏及元老院外務委員長モルガン氏英ヨリ上院司法委員

ハンチル氏及加奈陀領總埋大臣トムソン氏佛ヨリ前伯林駐在佛國公使ヨールセル氏以

太利ヨリ前外務卿ピスコレナ、ベノスタ氏ノルウエー、スウエデンヨリ有名ノ判事クラ

ム氏ナリキ

此ニ於テ十九世紀ノ大活劇ナル國際調停會議ハ初メテ成立シタリ歐米ノ俊傑ヲ一堂ニ集メテ以テ絶代ノ偉人ナル米國々務卿ブレエーン氏カ畢世ノ功名ヲ賭シタルベリング海問題ヲ決セントス豈又近世ノ一大奇觀ニアラスヤ此一大奇觀ハ世界文明ノ中心ナル佛國巴里府ニ於テ活演セラレタリ

十九世紀ノ一大奇觀タルベリング海問題ノ國際調停會議ハ實ニ千八百九十三年三月三日ヲ以テ佛國巴里ニ開設セラレタリ而シテ國際調停會議ノ慣例ニ準シテ佛國撰出會議員ハロン、マルセル氏ヲ以テ議長ト定メ茲ニ始メテ國際調停會議ノ成立ヲ完フセリ次テ英米

兩國ヨリ調停會議ニ提出シタル議題審査ニ掛レリ而シテ米國政府ヨリ提出シタル議題ハ左ツ如シ

- (1) ベーリング海上領海權及同海中密獵禁止權ノ如何ナル性質ヲ以テ魯國カアラスカノ地ト共ニ米國ニ讓リ渡シタルヤ
 - (2) 英國カ密獵船既扈ヲ擁護スル論據タル海獸獵權ノ區域如何
 - (3) 千八百二十五年英國カ魯國ニ對シテ締結シタル條約中太平洋トアルハベーリング海ヲモ含有シタルモノナルヤ又果モ含有シタルモノナラハ同條約締結後魯國ハ如何ナル領海權ヲベーリング海上ニ行ヒタリシヤ
 - (4) 千八百六十七年三月三十日締結條約文面ニ在ルベーリング海中境界線内ノ米國領海權及漁業權ハ米國カベーリング海ヲ魯國ヨリ讓渡サルト同時ニ讓渡サレタルモノナルヤ
 - (5) ベーリング海島ニ於ケル海獸カ海岸三哩以外ニ在ル際ハ如何ニ保護權ヲ應用シ得ルヤ
- 右五個ノ要点ニシテ國際調停會議ノ判定ヲ經テ米國カベーリング海中密獵ヲ禁止スルノ權利ヲ確メ且ツ英國政府モ之カ同意ヲ表スルニ至リ次テ左ノ條件ヲ議定セサルベカラス
- (1) 通常領海權ノ及フ海岸三哩ノ外如何ナル距離マテ米國政府ハ其海島内ニ生育セル海獸ヲ保護シ得ルヤ

(2) 海獸保護ノ爲メ通常領海權ノ距離以外ニ於テ一定ノ時期ヲ定メテ密獵ヲ禁制シ得ルヤ

(3) 果シテ密獵船ヲ禁制シ得ルトセハ其時期及ヒ區域ハ如何

斯クテ國際調停會議ハ其判決ヲ要スル議題ノ審査ニ取リ掛ルト同時ニ翌四月四日ヲ以テ英米兩國代表者ノ口頭辨論ヲ開廷スルコト、ナレリ此口頭辨論ノ國際法庭ニ英米兩國代表シタルハ何レモ兩國ノ俊才恰モ是百花研ヲ爭ヒ桃櫻艶ヲ競フノ活舞臺ヲ現出セリ其兩國代表者ヲ擧グレハ

○米國代表者

前國務卿ホスター氏

米國代表評議員

前英國駐在公使ヘルプス及ブローゲット、コーデルト、ランシング、ノ三氏

○英國代表者

加奈陀海軍卿タツパー氏

英國代表評議員

司法卿ラッセル氏前司法卿ウエグスター、クロッス氏及ヒ加奈陀代言人ロビンソンノ四氏

嗚呼千八百八十三年ノ四月四日ハ如何ナル日ゾ此ノ十九世紀ノ一大奇觀ハ實ニ此日ヲ以テ

其活舞臺ヲ開ケリ龍蒸虎驟論争ノ火花ハ綺羅文物ヲ飾リタル文明ノ中心ニ四飛散乱シ實ニ
一世ノ人目ヲ驚動セリ其歸スル處ハ英米兩國々權ノ論争ニ過キサルモ正シク是絶代ノ偉人
タル米國々務卿故ブレイン氏カ當時ノ英國總理大臣ニシテ英國保守黨ノ首領タルサルスベ
リ候ニ挑ミタル血戦カ最后ノ勝敗ヲ決セントスルナリ此ノ血戦カ米人凱歌ノ中ニ終リシ
時既ニ絶代ノ偉人ハ逝テ影ヲ終ニ此ノ偉人ヲシテ最后勝敗ノ跡ヲ目撃セシムルニ至ラシ
メサリシハ豈又千歳ノ憾事ニ非スヤ

彼ノ米國政府ノ論点ハ遠クハ彼ノ國務卿ベイヤード氏及ヒ故ブレイン氏ヲ初メトシ近クハ
此國際調停會議ニ出席シタル米國政府代表者ニ至ル迄其ベイリング海問題ヲ論争スル處ノ
論点ハ劃一ニシテ万調一律ト云フ有様ナリ即チ米國カ海獸保護ニ關スル權利ヲ別チテ之レ
ヲ左ノ三点ニ歸セリ

- (1) 米國ハベイリング海ヲ支配スルノ權利ヲ有セリト云フニ在リ
- (2) ベイリング海中ノ海獸ハ米國ノ私有財産ナリト云フニ在リ
- (3) 一時ノ私利ヲ圖ル密獵ノ濫行ヨリ海獸ノ種族ヲ滅スルハ人情ノ許サル處ナレバ之
ヲ防禦スルニ在リ

以上三個ノ論点ハ國際調停會議ニ於ケル米國論者ノ金城鉄壁ナリ米國論者ノ謂ヘラク米國
ガ魯國ヨリベイリング海ノ境界線以東ヲ讓渡サル、ヤ等シク其領海權ヲモ讓受ケタルヤ必
セリ讓渡條件中ニハ領海權ニ就テ別ニ規定スル處ナキモ現ニ魯國ハ曾テ英國其他諸國カ認

知セル如クベイリング海全面ニ領海權ヲ實行セ來リタルナリ即チ千七百九十九年ニ於テ魯
國皇帝ハ法令ヲ發シテベイリング海全面ニ於ケル魯國ノ領海權ヲ布告シタリ次テ千八百二
十一年九月四日ニ至リテ魯國皇帝アレキサンダー一世ハ更ニ一法令ヲ發シテ魯國人民ガ
ベイリング海中港灣及島嶼ニ於テ自由ニ商業漁業其他ノ事業ニ從事スルヲ公許シタリ其公
許ノ區域ハ北ハ北氷洋ニ連リタルベイリング海峽ヨリ南ハ北緯四十五度乃至五十度ノ間ニ
位シタルキユーライル島ノ南端ニ至リ東ハアリユン群島ヨリ西ハ西比利亞ノ東岸ニ
至レリ斯クベイリング海ノ全面ニ魯國カ領海權ヲ行フテ其臣民ニ漁業其ノ他事業ノ自由ヲ
公許シタルト共ニ外國ノ船舶ヲ嚴禁シテベイリング海島ニ上陸セシムル事ダニ許サズ且ツ
海島ヲ距ル以太利里程百哩以内ニハ之ニ近クヲ禁セリ而シテ外國船舶ノ此禁ヲ犯ス者ハ
其積荷ト共ニ船体ヲ沒収スルヲ例トセリ是確カニ魯國ハベイリング海及太平洋ノアラスカ
及西比利亞ノ間ニ狹マレタル部分ハ純然タル魯國領海權ノ下ニ屬シタルヲ証認シタルモノ
ナリ

當時米國國務卿アマムス氏及英國外務大臣カンニング氏ハ此魯帝ノ法令ニ反對シテ遂ニ英
米兩國ガ魯國ニ對スル國際談判トナリ魯米兩國ハ千八百二十四年四月十七日ヲ以テ條約ノ
調印ヲ濟セリ其條約文中ニ米國人民ハ太平洋中何レノ處ヲ問ハス漁業ヲ營ミ航海ヲ爲シ又
土人貿易地ノ外何地ニ於テモ上陸スルヲ得ノ規定ヲ爲セリ又魯國ガ英國ニ對シテ締結セ
ル條約ハ千八百二十五年二月二十八日ニ調印セラレ其條約文中又魯米條約文中ト同一ノ權

利チ英國人民ニ許與セリ而シテ此ノ條約締結後魯國ハ猶依然トシテペーリング海上ノ領海權ヲ實行シタリ故ニ此條約文中ニ云ヘル太平洋中トハペーリング海ヲ包含セサルヤ明也故ニ亦ペーリング海ガ魯帝ノ手ヨリ米國ニ讓渡サレタルト共ニ其領海權モ共ニ米國ニ讓渡サレタルモノナリト云フハ正當ノ論據ナリ此第一論点ハ正シク米國論者ガ國際調停會議ニ於ケル必要ノ武器トシテ最モ銳ク磨キ立テタル論鋒ナリ而シテ第二論点ニ比シテハ簡明ニシテ從テ其理由トスル處又復雜ナラサルナリ今其第二論点ノ理由トスル處ヲ説カン

夫レ海獸ハ縱ヒ暫ク其棲息セル海島ヲ離ル、トアルモ必ス再ヒ其海島ニ歸來スルモノナリ是レ天性ノ然ラシムル所ナリ故ニペーリング海中ゾクビロブ群島ニ棲息セル海獸ヲ保護スルニ至リテハ一定ノ時期ト場所ヲ劃シテ以テ獵業ヲ制限スルノ必要アリ之レヲ例フレハ海獸ハ猶飼養セラル、ト鷹鷲蜜蜂其他ノ禽獸ノ如シ故ニ米國所屬ノ海島ニ棲息スル海獸ニシテ米國ノ所有タラバ何レノ處ニ至ルモ之ヲ保護スルノ術ヲ講セサル可ラス第二論点ノ理由ハ斯クノ如ク簡單ナリ然レハ第三論点ニ至テハ論理稍空漠タルノ感ナキニアラス去レト細カニ之ヲ考フル時ハ人類カ正理公道ニ依リテ棲息スル以上ハ第三論点モ又決シテ薄弱ナラサルナリ其第三点ヲ布演シテ米國論者ハ云ヘリ

且ツ夫レ密獵濫行ハ正理ニ反シ公道ニ反ケリ彼ノ正理公道ハ猶万国公法ニ均シキナリ彼ノ海獸ハ固米國政府保護ノ下ニ繁育シタル者ニシテ而カモ人類須要ノ産業ナリ然ルニ密獵者ガ母獸ヲ殺シテ獸兒ヲ自滅セシメ以テ人類須要ノ産業ヲ發達セシメズ否反テ之レヲ衰滅セ

シムルハ是即チ正理公道ニ違背シタル者ニ非スシテ何ソヤ以上述フル所即チ米國論者カ三論点ノ要旨ナリトス而シテ是等論点中第三ニ位スル者最モ高尚ナル者ナリ而シテ又最モ空漠ナル者ナリ論旨ノ空漠ナル者ハ議論ヲ立ツルニ苦ム意味ノ高尚ナル者ハ之ヲ辨解スルニ難シ即チ米國代表者及評議員ハ如何ニ之ヲ國際調停會議ニ於テ論述シタルカヲ見ン

米國論者ハ國際調停會議ニ出廷シテ彼ノ第三論点ヲ辨シテ自然ノ法ヨリ立論シ以テペーリング海問題モ文明國民カ均シク認得セシ正道ノ原理ヨリ導カレタル法理ニ依テ判斷セサルヘカラスト極論シ來リテ謂フク

然レ共世ニ文明國民全体ヲ支配スルノ法律ナルモノナシ之レ法律ノ無キニアラス斯ル法律ヲ制定スル立法者ナキナリ今ヤ國際調停會議ナルモノ開設セラレタルモ即チ文明國民全体ヲ支配スル無形ノ法律ヲ適用シテ此ノペーリング海問題ヲ判決セサルベカラスト論及シテ更ラニ一步ヲ進メテ謂ハク且ツ夫レ正理ノ標準ハ其ノ歸スル所各々均シク其一國民若クハ一個人ヲ支配スル法律ハ唯タ是レ宇宙道德ノ一部分ニ過キス而シテ其法律ナルモノハ人類ノ性理ト時情ニ基キテ造リタル者ナリ勿論天然ノ法則ナル者ハ屢人ニ依テ誤解セラレ爲メニ道德學ニ於ケル解釋ノ異同ハ免レサル者トスルモ實際國民ノ行爲習慣ノ上ニ徴スレハ明カニ自然ノ法則ハ一定不變ニシテ天下國民舉ケテ之レニ準據シタルヲ見ルニ足レリ故ニ天下ノ國民タル者ハ均シク此ノ自然ノ法則ニ從ハサル可ラス偶利害ヲ異ニスル各國カ兩々個々相争フアリテ其証據物件ニ於テ欠クルアラバ之ヲ判斷スル者又宜シク自然ノ法則宇宙ノ正

道ニ依テ之ヲ決セサル可ラス故ニ國際調停會議カ英米兩國間ニ蟠カマルベールリング海問題
ヲ決スルニ當リ須ク左ノ五個ノ要点ニ就テ深ク注意スル處ナカルベカラス

- (1) 國民實地ノ行爲習慣ヲ研究セシムルハ(歴史、他國民ヨリ反對セラレサル國體、條約及
外交文書)ニ據ラサルヘカラス

- (2) 法廷ノ裁判ハ國民ノ法律ヲ實行スルモノナルヲ忘ルベカラス

- (3) 國民ノ法律ナルモノナキ場合ハ正理公道ニ依テ之ヲ判決セサルベカラス

- (4) 兩國間異論ナキ限リハ國法ニ依テ之ヲ處斷セサルベカラス

- (5) 有名ナル性法學者ヲ陪審官トシテ其贊同ヲ求ムベシ

以上ノ議論ハ實ニ米國論者國際調停會議ニ於テ抗言セシ處ナリ而シテ米國代表議員ノ一人
タルフエルフス氏ハ一篇ノ意見書ヲ認メテ之レヲ同會議ニ提出シタリ

夫レ海獸獵業ハ頗ブル有望ノ事業ニシテ其監理宜キヲ得ルハ永久ニ且ツ巨大ノ設計ヲ
以テ之ヲ行テ得ベク而シテ此事業ハ即チ海島所屬國民ノ權限内ニ在ルハ論ヲ待タサルナリ故
ニ他國民ガ漫リニ關係諸國ノ容喙ナキニモ拘ラス擅ニ獨リ暴戾ヲ逞フシ海島所屬國民ノ事
業ヲ侵害シ以テベールリング海島ノ近海ヲ横行シ海獸ガ分娩ノ爲メ海上ニ游泳シ居ルヲ濫殺
セシカ是即海獸種族ノ族滅ヲ計ルモノナリ况ンヤ海獸分娩ノ際ハ之ヲ保護庇翼スルハ人情
ノ常ナルニ於テチヤ且ツ反對論者ハ云ハクベールリング海島近海三哩以外ノ海上ニ於ケル海
獸ノ濫殺族滅ハ米國政府之ヲ防遏スルヲ得ズト吁是何等ノ暴言ヅヤ若シ反對論者ノ説ノ如

クンハ海岸三哩以外ノ海上ニテ海賊若クハ奴隸賣買船横行シダランカ之レガ爲メ接近國民
ハ其商業ヲ枯萎シ其治安ヲ妨害セラレン然ラハ即チ接近國民ハ其海賊若クハ奴隸賣買船ヲ
防禦スルノ權利ナキカ否海岸三哩以外ノ海上ト雖モ接近國民ハ必ラス之ヲ傍觀放任スル
能ハサル者ナリ其他海岸三哩以外ノ海上ニ於ケル所行ニシテ接近國民ニ害毒ヲ及ス者頗ル
多シ海獸密獵モ實ニ其一ナリ故ニ三哩以外ノ海上ハ通常領海權ノ及サル處ナリト雖モ彼
人類ニ正當防禦ノ權利アルト均シク一國ノ財産ニモ又正當防禦ノ權利附帶シテ其領海權區
域内ニ正當防禦ヲ實行シ得ルト共ニ其區域以外ニ於テモ財産ノ正當防禦ハ之ヲ行フハ不可
ナキナリ例ヘハ英領加奈陀ノ海岸ノ魚族カ其近海ニ毒ヲ流スモノアリシカ爲メ毒殺セラレ
爲メニ漁業者ニ著シキ損害ヲ與ヘタリトセム加奈陀政府ハ其毒殺凶行カ領海區域以外ニ在
リトシ國際法上其權利ノ及ハサル處ト斷念シテ之レヲ默過センカ是レ大ニ研究セサルヘカ
ラサル處ノ問題ナリ蓋シ毒ヲ流シテ魚族ヲ殺盡スルカ如キハ慘酷無情ノ極ト謂ハサルヘカ
ラス而シテ海獸ノ濫殺又實ニ之レニ類スルモノアリ故ニ國際調停會議カ海獸濫殺問題ヲ處
決セントスルニ當テハ其先例ヲ求メントスルモ決メ之ヲ發見スル能ハサルナリ蓋シ海獸濫
殺ノ如キ慘酷無情ノ凶行ハ千古其例ヲ見出サントスルモ之ヲ見出ス能ハザルヘシ故ニ先例
ヲ蒐集シテ成立タル國際法ハ此問題ヲ決斷スルニハ十分ニ有効ナラサルナリ

米國論者ノ意見ハ此ノフエルフス氏ノ意見書ニ依テ猶能ク窺ヒ知ルヲ得而シテ米國論者ハ猶
之ヲ辨護シ海岸三哩以外ノ海上ニ於テ領海權ヲ應用シタルノ例証數個ヲ擧ケ現ニ彼ノ海賊

若クハ奴隷賣買船ノ防遏ハ國際法上認許セラレ戰時敵船ヲ横領スルハ國權ノ正當防禦トシテ公法ノ規定スル所ナリ又密獵買易船ヲ防キ若クハ檢疫法上海港四哩以内ニ疫病船船ヲ禁スルカ如キ皆是正當防禦ノ手段ナリ米國カアラスカ海島ノ海獸ヲ以テ其財產ト爲ス以上ハ又密獵船ヲシテペーリング海中ヲ横行セシメサル様之ヲ禁止スルハ實ニ米國ガ正當防禦ノ權内ニ在リト云フニ在リ余ハ之レヨリ英國論者ノ抗論ヲ概説セントス

英國論者ノ概説左ノ如シ

(1)魯國ハ曾テ千八百二十一年ニ法令ヲ發シテ以テペーリング海中ニ於ケル領海權ヲ主張シタルモ後魯國ハ同法令ヲ撤回セリ

(2)ペーリング海ハ無論千八百二十四年ノ魯米條約及千八百二十五年ノ魯英條約ニ明記セル太平洋ノ一部分ナリ

(3)海獸ハ猶海中ノ魚族ノ如シ決メ之ヲ一國ノ財產トシ見ルベカラズ

(4)天下國民ノ法律タルモノハ唯漠然タル正理公道人類ノ利害及動物ニ對スル恩惠ナドニ據リテ生立シタルモノニアラス即チ國際ノ約定國民ノ贊同ヨリ生ジタル權利ヲ規定シタルモノナリ

英國論者ノ抗論ハ以上四項ニ別チ之ヲ辨セリ而シテ國際調停會議ノ法庭ハ實ニ火ト火ト闘ヒ花ハ花ヲ搦ツノ奇觀ヲ描ケリ而シテ此火花ノ決戦ハ如何ニ裁決セラレタルカヲ説カン

英米兩國主權ノ戰爭ハ時正ニ酣チ過キテ兵疲レ旗倒レテ其勝敗ノ分ル、處機髪ヲ容レサル

ノ場合トナレ而シテ國際調停會議ニ裁判ヲ實ニ此ノ勝敗ヲ決スル一聲ノ鼓響ヲシセリ其裁判ハ實ニ昨千八百九十三年八月十五日ニ於テ宣告セラレタリ而シテ多年英米間ニ蟠屈シタル主權ノ爭論ニ全ク其終リヲ告ゲタルナリ故ニ其宣告文ノ全般ヲ掲ゲテ以テ本篇ヲ結ハントス

國際調停會議ノ宣告文ニ云ヘリ

國際調停會議委員一同ハ英米條約第五條ニ據リテ調停會議ヲ開キ以テ米國政府提出ノ五個條ニ付テ裁決スルヲ左ノ如シ

(1)千八百二十一年魯帝發布ノ法令ハ確ニ魯國ハペーリング海ニ於テ海岸及ヒ海島一百哩(以太利程)ノ距離以内ノ海上ニ於ケル領海權ヲ認メタルモノナリ然レモ千八百二十四年ノ魯米條約及ヒ千八百二十五年ノ魯英條約ニ於テハ明ニペーリング海中ニ於ケル魯國領海權ヲ海岸ヨリ彈丸ノ達スル距離ヲ限リタルナリ故ニ此ノ時以後千八百六十七年魯國ガアラスカ米國ニ讓渡スル至ルマデ間ハ魯國ハ決シテ實際上ペーリング海全面ニ於ケル領海權ヲ主張セス又之ヲ實行セス况ンヤ通常領海權海岸三哩以外ノ海上ニ於ケル漁業ニ干涉スルニ於テナヤ

(2)英國ハ決シテペーリング海中ノ通常領海權距離三哩以外ニ於ケル漁業ニ對シテ魯國支配權ヲ承諾セサルモノト判決ス

(3)千八百二十五年魯英條約中太平洋トアルハ無論ペーリング海モ其内ニ含有シタルモ

ノト判決ス

- (4) ベーリング海中に於ケル領海及漁業ノ權利ハ魯國カ之レヲ米國ニ讓渡ス際ニ區劃削ラレタルモノト判決ス
 - (5) 米國ハベーリング海島ニ於ケル海豹ヲ保護スルノ權利ハ通常領海權距離三哩以外ニ之レヲ及スヲ得サルモノト判決ス
- 以上ノ判決ハ全ク米國ガベーリング海ニ於ケル領海權ヲ規定シタルモノナリ然レモベーリング海島ノ海豹ヲ保護スルニハ英米兩政府ノ贊同一致ヲ以テ適當ノ方法ヲ執ラサルベカラズ即チ國際調停會議ハ左ノ九箇條ノ制度ヲ定メ以テ兩政府ノ一致協同シテ之ヲ實行セン事ヲ要ス

- (1) 英米兩政府ハ其國民カベーリング海中フリビロブ群島距離六十哩ノ内ニ於テ海獸ヲ捕殺スルヲ全ク禁止スベシ
- (2) 兩政府ハ毎年五月一日ヨリ七月卅一日ニ至ルマデ北緯三十五度以北ベーリング海峽ニ至ル間ノ海上ニ於ケル魯米境界線以東ハ全ク兩國國民ノ海豹捕殺ヲ禁止スベシ
- (3) 海獸獵業許可ノ時期ニ於テモ通常獵具ヲ備ヒタル帆船ノ外獵業ニ從事スルヲ得ス
- (4) 海獸獵業許可免狀ヲ所有スル帆船ハ海獸獵業ニ從事スルヲ得又帆船ハ英米各政府所定ノ旗章ヲ用ヒキモノトス
- (5) 海獸獵船長ハ獵業ノ場所時日毎日捕獲頭數牝牡頭數等ヲ届出ツベシ兩政府ハ每期ノ

終リニ於テ互ニ之レヲ通知スベシ

- (6) 海獸獵業ニハ火器爆烈彈等ヲ用ユベカラズ尤モベーリング海以外ニ於テ發彈銃ヲ用ユルハ此限ニテス
 - (7) 兩政府ハ海獸獵業者ノ檢査ヲ爲スベシ殺獸器使用シ得サル者ニハ海獸獵ヲ免許サルヲ得ス
 - (8) 以上ノ制限ハアラスカ土人ニ應用スルヲ得ス尤モ土人ハ海獸獵業船ニ備入レ若シハ土人ニ對シテ獸皮買受ケ約定ヲ結ビ土人ヲシテ遠洋ニ出獵セシムルヲハ之ヲ禁止スベシ
 - (9) 以上海獸保護ニ關スル制度ハ英米兩政府相互ニ贊同ヲ以テ之ヲ遵守スベシ若シ制度ノ全体或ハ一部分ヲ改正セント欲セハ兩政府ノ協議ヲ經テ之ヲ行フベシ尤モ此ノ制度ハ五年間之ヲ實行試驗スベシ之ヲ改正スルノ必要ヲ感セハ五年以後ニ於テスベシ
- 以上ハ國際調停會議ノ裁判宣告ナリ英米兩國カ論争ノ上ニ就テ米國カ主張シタル領海權ハ大ニ英國ノタメ打敗ラレタルノ感ナキニ非スト雖モ其海獸保護上ニ於テハ裁判ノ宣告確カニ米國ノ論旨ニ軍配ヲ揚ケタルモノナリ殊ニ米國政府カ憂慮措ク能ハサリシ密獵船ハ處分ニ至リテモ國際調停會議ハ大ニ米國ノ國利ヲ庇保シタルヲ見ル請フ少シク之ヲ述ベテ本論ヲ終了セシ

國際調停會議委員ハ海獸保護ノ制度ヲ規定シタルト同時ニ曩キニ米國密獵取締船ヨルウイ

ル號及ラツシ號カ取押ヘタル英國密獵船十四艘ニ對シテ特別價金ヲ仕拂ヒシメ又殘三艘ハ
 ベーリング海以外ニ退去セシムルヲ宣告シタリ尤モ其取押ヘタル密獵船ノ科金ハ米國ノ
 所有ニ屬スベキモノナルヤ否ヤ又密獵船カ何程ノ價額ナルヤノ問題ハ國際調停會議ニ於テ
 決定スベキ所ニアラストノ英米兩政府ノ協議ニ任スル事ト爲シ兩政府ノ贊同ヲ得タリ
 又國際調停會議委員ハ其裁判ヲ終ルニ當リテ英米兩政府ノ注意ヲ喚起セン爲メ三個條ノ告
 文ヲ發セリ其文ニ謂ヘリ

- (1) 國際調停會議委員カ千八百九十二年二月二十九日締結條約第七條ニ依リ規定シ以テ
 英米兩政府ノ贊同ヲ求メタル制度ハ唯一般ノ海上ニ應用スベキモノナリ故ニ兩海領
 範圍內於ケル規定ハ海獸保護制度ヲ補則トシ之ヲ定メ兩國相互ノ贊同ヲ求ムベシ
 - (2) 海獸種族減少ノ今日ニ當リ國際調停會議委員ハ英米兩政府カ一年乃至三年ノ歲月ヲ
 限リ海陸ノ別ナク一般ニ海獸捕獲ヲ禁止スルニ必要ナルヲ信ス尤モ其方法ハ兩政府
 ノ便宜ニ任スベシ
 - (3) 國際調停會議委員ハ其決定シタル海獸保護制度ヲ兩政府ニ實行セシムルニ當リ兩政
 府ハ其實行ノ約定及方法ヲ定メシメ國際調停會議委員ハ兩政府ノ定メタル約定
 及方法ニ據リ海獸保護制度ノ實行ヲ兩政府ニ一任スベシ
- 斯ノ國際調停會議ノ裁判ハ終リ英米兩國ノ權利爭ヒ茲ニ全ク決定セリ其權利ハ勝敗ノ上
 ヨリ論スレハ米國ハ領海權ノ區域ハ大ニ削ラレタリト雖モ其ベーリング海中ノ海獸ヲ保護

スルニ於テ國際調停會議ノ嚴然タル制度ヲ劃出シタルハ正シク米國ノ實利ヲ將額ニ回復シ
 タルナリ故ニ國際調停會議カ發シタル三個ノ告文ハ確カニ米國ノ實利ヲ庇保シテ告文第二
 ニ謂ヘル海獸捕獲ノ禁止ハ現ニ昨年以來英米兩政府ハ軍艦ヲベーリング海口ニ派遣シ以テ
 密獵船ヲ防遏スルノ活劇ヲ演スルコトナリ噫吁千八百八十六年以來ベーリング海中ニ横行
 セシ密獵船ハ茲ニ初メテ其跋扈ヲ遮斷セラレ、ニ至レリ此結果ハ能ク米國ノ満足ヲ買フコ
 餘リアルベシト雖モ其七八十艘ノ密獵船ハ將タ何レノ邊ニ向テ其跋扈ヲ逞フセントスルカ
 今後一兩年間ベーリング海中ヨリ密獵船ヲ驅逐シテ以テ全ク海獸獵業ヲ禁止シ海獸種族ノ
 繁殖ヲ計ルハ是レ米國政府得意ノ所ナリ然レ共此米國政府ノ得意ハ我日本國民ノ大ニ憂慮
 スベキ所ニ非スヤ數十艘ノ密獵船ハベーリング海ニ入ル能ハズン續々日本近海ニ向ヘリ日
 本ノ當局者果ノ之ニ對シテ何等ノ覺悟カ有ル今ヤ我國北門ノ寶庫鎖サス徒ラニ密獵船ノ帆
 影千島ノ波間ニ隱現ス豈又慨嘆ノ至リニアラスヤ般鑑ハ近ク南極ノ洋上ニ在リテ南極洋上
 ノ海獸ハ期年ヲ出テスノ族滅シタルナリ我カ千島ノ海獸又南極洋上ノ覆轍ヲ蹈マサルナキ
 ナ得ンヤ今ヤ絶代ノ偉人ハ逝テ跡ナシ而シテ我國北門ノ海獸獵業ハ方ニベーリング海ノ舊觀
 ナ線返サントス嗚呼我カ國ノブレエインナルモノ果ノ誰ツヤ當路遂ニ絶代ノ偉人ナキカ本
 篇ヲ終ルニ當テ一團ノ感慨胸ヲ衝キ空シグ故國ノ天際ヲ睥睨スルノミ

海獸獵業法策畢

ル號及ラツシ號カ取押ヘタル英國密獵船十四艘ニ對シテ特別價金ヲ仕拂ハシメ又殘三艘ハ
 ベーリントン海以外ニ退去セシムルヲ宣告シタリ尤モ其取押ヘタル密獵船ノ科金ハ米國ノ
 所有ニ屬スベキモノナルヤ否ヤ又密獵船カ何程ノ價額ナルヤノ問題ハ國際調停會議ニ於テ
 決定スベキ所ニアラストノ英米兩政府ノ協議ニ任スル事ト爲シ兩政府ノ贊同ヲ得タリ
 又國際調停會議委員ハ其裁判ヲ終ルニ當リテ英米兩政府ノ注意ヲ喚起セン爲メ三個條ノ告
 文ヲ發セリ其文ニ謂ヘリ

- (1) 國際調停會議委員カ千八百九十二年二月二十九日締結條約第七條ニ依リ規定シ以テ
 英米兩政府ノ贊同ヲ求メタル制度ハ唯一般ノ海上ニ應用スベキモノナリ故ニ兩海領
 範圍内ニ於ケル規定ハ海獸保護制度ヲ補則トシ之ヲ定メ兩國相互ノ贊同ヲ求ムベシ
 - (2) 海獸種族減少ノ今日ニ當リ國際調停會議委員ハ英米兩政府カ一年乃至三年ノ歲月ヲ
 限リ海陸ノ別ナク一般ニ海獸捕獲ヲ禁止スルニ必要ナルヲ信ス尤モ其方法ハ兩政府
 ノ便宜ニ任スベシ
 - (3) 國際調停會議委員ハ其決定シタル海獸保護制度ヲ兩政府ニ實行セシムルニ當リ兩政
 府ヲシテ其實行ノ約定及方法ヲ定メシメ國際調停會議委員ハ兩政府ノ定メタル約定
 及方法ニ據リ海獸保護制度ノ實行ヲ兩政府ニ一任スベシ
- 斯ノ國際調停會議ニ裁判ハ終リ英米兩國ノ權利爭ヒ茲ニ全ク決定セリ其權利ハ勝敗ノ上
 ヨリ論スレハ米國ハ領海權ノ區域ハ大ニ削ラレタリト雖モ其ベーリントン海中ノ海獸ヲ保護

スルコ於テ國際調停會議ノ嚴然タル制度ヲ劃出シタルハ正シク米國ノ實利ヲ將額ニ回復シ
 タルナリ故ニ國際調停會議カ發シタル三個ノ告文ハ確カニ米國ノ實利ヲ庇保シテ告文第二
 ニ謂ヘル海獸捕獲ノ禁止ハ現ニ昨年以來英米兩政府ハ軍艦ヲベーリントン海口ニ派遣シ以テ
 密獵船ヲ防遏スルノ活劇ヲ演スルトナリ噫吁千八百八十六年以來ベーリントン海中ニ横行
 セシ密獵船ハ茲ニ初メテ其跋扈ヲ遮斷セラル、ニ至レリ此結果ハ能ク米國ノ満足ヲ買フニ
 餘リアルベシト雖モ其七八十艘ノ密獵船ハ將タ何レノ邊ニ向テ其跋扈ヲ逞フセントスルカ
 今後一兩年間ベーリントン海中ヨリ密獵船ヲ驅逐シテ以テ全ク海獸獵業ヲ禁止シ海獸種族ノ
 繁殖ヲ計ルハ是レ米國政府得意ノ所ナリ然レ共此米國政府ノ得意ハ我日本國民ノ大ニ憂慮
 スベキ所ニ非スヤ數十艘ノ密獵船ハベーリントン海ニ入ル能ハズノ續々日本近海ニ向ヘリ日
 本ノ當局者果ノ之ニ對シテ何等ノ覺悟ガ有ル今ヤ我國北門ノ寶庫鎖サス徒ラニ密獵船ノ帆
 影千島ノ波間ニ隱現ス豈又慨嘆ノ至リニアラスヤ般鑑ハ近ク南極ノ洋上ニ在リテ南極洋上
 ノ海獸ハ期年ヲ出テスノ族滅シタルナリ我カ千島ノ海獸又南極洋上ノ覆轍ヲ蹈マサルナキ
 ナ得ンヤ今ヤ絶代ノ偉人ハ逝テ跡ナシ而シテ我國北門ノ海獸獵業ハ方ニベーリントン海ノ舊觀
 ナ線返サントス嗚呼我カ國ノブレエインナルモノ果ノ誰ツヤ當路遂ニ絶代ノ偉人ナキカ本
 篇ヲ終ルニ當テ一團ノ感慨胸ヲ衝キ空シグ故國ノ天際ヲ睥睨スルノミ

海獸獵業法策畢

明治二十八年四月十五日印刷
明治二十八年四月十八日發行

非賣品

著者
行述者

東京市下谷區元黑門町廿五番地

高瀨寅昌

印刷者

東京市神田區小川町登番地

宮本敦

印刷所

東京市神田區小川町登番地

愛善社



